

山梨県内分布調査報告書

(平成24年1月～12月)

2013. 3

山 梨 県 教 育 委 員 会

山梨県内分布調査報告書

(平成24年1月～12月)

2013. 3

山梨県教育委員会

序

本書は、平成24年1月から同年12月まで文化庁の補助金を得て実施した山梨県内分布調査の試掘・確認調査と立会調査の結果をまとめたものです。

今回対象となった事業の内容として試掘・確認調査23件については、道路建設事業12件（国事業3件、県事業1件、中日本高速道路株式会社8件）、山梨リニア実験線建設事業（独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）1件、建物・施設建設事業9件（県事業のみ）、河川改修事業1件（県事業のみ）があります。また、立会調査16件については、道路建設事業3件（県事業のみ）、建物・施設建設事業11件（国事業1件、県事業10件）、河川改修事業1件（県事業のみ）、公園整備事業1件（県事業のみ1件）があります。

試掘・確認調査では、甲府駅南口修景計画事業（甲府城下町遺跡）、東部地域総合制高校建設事業（三ノ側遺跡）の各事業において遺構や遺物などが発見されたことから事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保あるいは発掘調査等）を行う必要があることが確認され、平成25年度以降に発掘調査を実施する予定となっております。甲府城跡の堀の覆土が確認された甲府駅南口周辺地域修景計画事業については、地下の遺構に影響を及ぼす際には埋蔵文化財の適切な保存措置を行うよう報告しております。また、中部横断自動車道建設事業予定地内（身延町下山地先）の現堤防部分については、下山堤防遺跡が遺存する可能性が確認されたことから、今後「堤体部」を掘削する際には改めて立会調査を行い、断面観察により堤体構造を記録保存することが確認されております。なお、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査については、今後も継続して用地未取得地における埋蔵文化財保護の対応を図っていくことが確認されました。

立会調査では、多くの調査において、遺構や遺物は確認されず工事を進めても差し支えない旨を報告していますが、甲府城跡の堀の覆土が確認された山梨県防災新館建設事業については、地下の遺構に影響を及ぼさない適切な保存措置を行うよう報告しております。

本報告書が文化財保護と開発事業との円滑な調整に役立つとともに、多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いです。

未筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位並びに直接調査にあられた方々に厚く御礼申し上げます。

2013年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻 與志夫

例 言

- 1 本報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成24年1月から同年12月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘・確認調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。
- 2 本報告書は、国・県・中日本高速道路株式会社の道路建設、建物建設事業、鉄道・運輸機構の山梨リニア実験線建設事業などの試掘・確認調査結果と国・県の道路建設、建物建設、河川改修、公園整備事業などの立会調査結果を収録している。
- 3 調査結果の報告については、各事業の調査担当者が行い、その報告に基づき保坂和博・土橋寛仁が執筆・編集した。なお、各調査担当者については、本文に明記した。
- 4 本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 5 試掘・確認調査作業員並びに整理作業員は次のとおりである。(敬称略・順序不同)
中部横断自動車道建設事業(芦川栄、池田明広、小澤利一、佐野欣二、仲沢清祥、望月秋夫)、国道52号改良事業(河野逸広、望月太喜雄)、整理作業員(阪本國廣、望月太喜雄、箭本公幸)
- 6 本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。(順不同)
国土交通省甲府河川国道事務所、林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所、鉄道・運輸機構、東海旅客鉄道株式会社、中日本高速道路株式会社、山梨県リニア交通局(リニア推進課)、山梨県総務部(管財課)、山梨県森林環境部(県有林課)、山梨県産業労働部(産業人材課、山梨県立峡南高等技術専門学校)、山梨県県土整備部(道路整備課、都市計画課、建築住宅課)、山梨県中北建設事務所(道路課、都市整備課)、山梨県峡東建設事務所(用地課、道路課、河川砂防管理課)、山梨県警察本部、山梨県教育委員会(学校施設課、山梨県立北杜高等学校、山梨県立東高等学校、山梨県立園芸高等学校、山梨県立谷村工業高等学校、山梨県立わかば支援学校、山梨県立かえで支援学校)、市川三郷町教育委員会、大月市教育委員会、甲斐市教育委員会、甲州市教育委員会、甲府市教育委員会、都留市教育委員会、南部町教育委員会、笛吹市教育委員会、富士川町教育委員会、富士吉田市教育委員会、北杜市教育委員会、南アルプス市教育委員会、身延町教育委員会

凡 例

- 1 各事業の位置図は、1/25,000のスケールを基本としている。
- 2 図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。
- 3 実測図及び写真は主要なものに限った。

本文目次

序

例言・凡例

目次

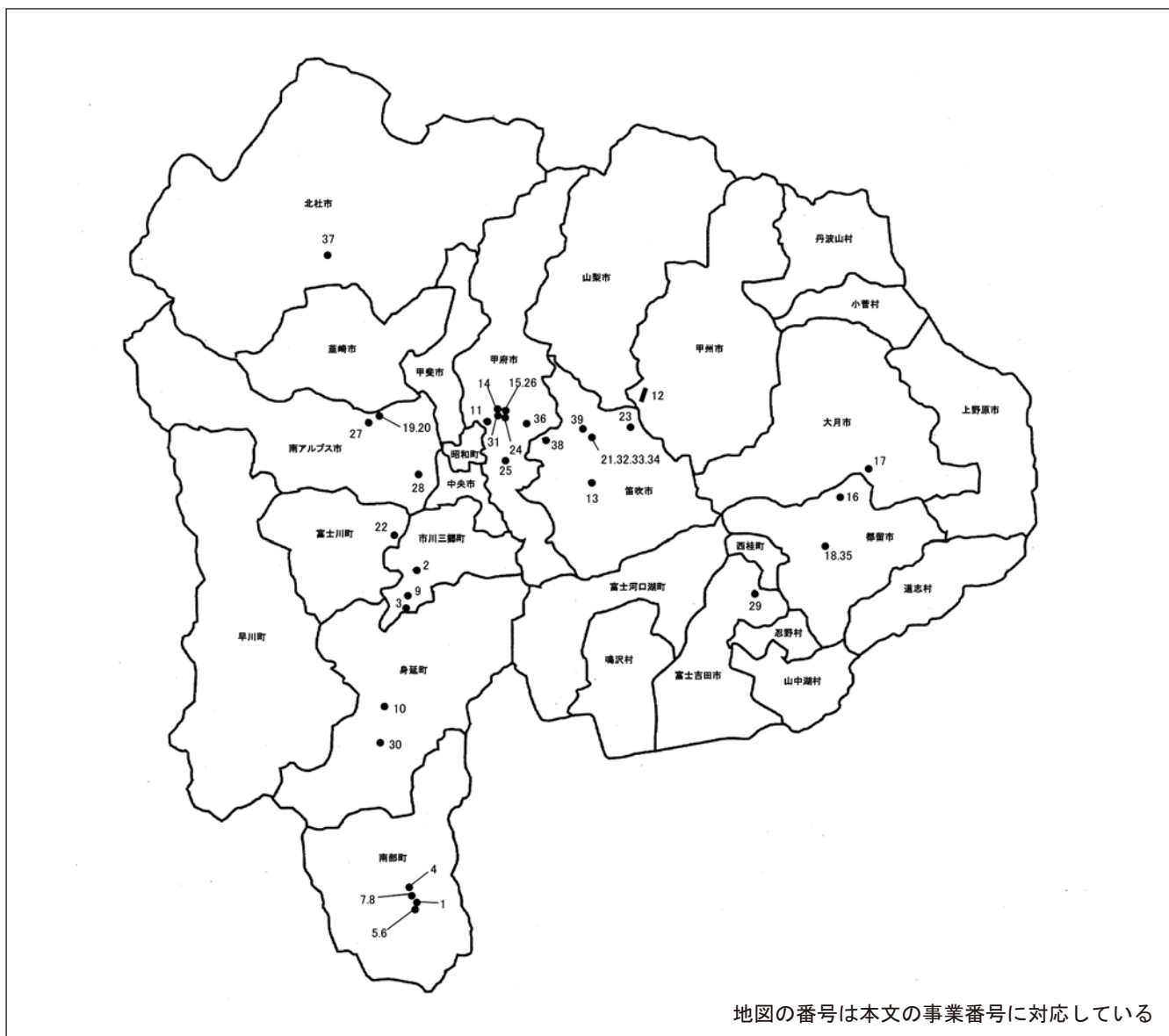
I 試掘・確認調査

県内分布調査全体事業位置図	1
1 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字峰地内）	2
2 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町黒沢字洗平地内）	3
3 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町岩間地内）	4
4 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字真篠地内）	5
5 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字矢島地内）	6
6 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字矢島地内）	7
7 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字平地内）	8
8 中部横断自動車道建設事業（南部町福士字平地内）	9
9 中部横断自動車道建設事業（市川三郷町落居地内）	10
10 中部横断自動車道建設事業（身延町下山地内）	11
11 国道52号改良事業（甲府市上石田地内）	12
12 国道411号改良事業《大門後遺跡》	13
13 山梨リニア実験線建設事業《柚木遺跡》	16
14 甲府駅南口修景計画事業《甲府城下町遺跡》	17
15 甲府駅南口周辺地域修景計画事業《甲府城跡》	19
16 リニア見学センター再整備事業（都留市川茂地内）	20
17 県営住宅大月団地建替事業《丹後屋敷》	21
18 東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》	22
19 県立わかば支援学校建設事業《後田堰》	24
20 県立わかば支援学校建設事業《後田堰》	25
21 県立かえで支援学校建設事業（笛吹市石和町地内）	26
22 県立峡南高等技術専門校本館改築等事業《堤防遺跡推定地》	27
23 南川河川改修事業《桜坪遺跡・中尾条理遺跡》	29

II 立会調査

24 国道411号古府中環状浅原線改良事業《甲府城下町遺跡》	30
25 国道358号共同電線溝設置事業（甲府市上今井町地内）	32
26 甲府山梨線整備事業（甲府市丸の内地内）	33
27 林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舍解体事業（南アルプス市有野地内）	34
28 南アルプス警察署三田駐在所改築事業（南アルプス市寺部地内）	35
29 県営住宅寿団地下水道接続事業（富士吉田市上暮地地内）	36
30 県営住宅身延第二団地下水道接続事業（身延町波木井地内）	37

31	山梨県防災新館建設事業《甲府城跡》	38
32	県立かえで支援学校分教室改修事業《狐原遺跡》	39
33	県立かえで支援学校建設事業《狐原遺跡》	41
34	県立園芸高等学校施設整備事業《狐原遺跡》	42
35	県立谷村高等学校施設整備事業《三ノ側遺跡》	43
36	県立甲府東高等学校治水対策事業（甲府市酒折地内）	44
37	県立北杜高等学校緊急修繕事業（北杜市長坂町地内）	45
38	平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》	46
39	森林公園金川の森再整備事業《宮の上遺跡》	47



平成24年県内分布調査全体事業位置図

1.中部横断自動車道建設事業 2.中部横断自動車道建設事業 3.中部横断自動車道建設事業 4.中部横断自動車道建設事業
 5.中部横断自動車道建設事業 6.中部横断自動車道建設事業 7.中部横断自動車道建設事業 8.中部横断自動車道建設事業
 9.中部横断自動車道建設事業 10.中部横断自動車道建設事業 11.国道52号改良事業 12.国道411号改良事業《大門後遺跡》
 13.山梨リニア実験線建設事業《柚木遺跡》 14.甲府駅南口修景計画事業《甲府城下町遺跡》 15.甲府駅南口周辺地域修景計画事業《甲府城跡》
 16.リニア見学センター再整備事業 17.県営住宅大月団地建設事業《丹後屋敷》 18.東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》
 19.県立わかば支援学校建設事業《後田堰》 20.県立わかば支援学校建設事業《後田堰》 21.県立かえで支援学校建設事業
 22.県立峡南高等技術専門校本館改築等事業《堤防遺跡推定地》 23.南川河川改修事業《桜坪遺跡・中尾条理遺跡》
 24.国道411号古府中環状浅原線改良事業《甲府城下町遺跡》 25.国道358号共同電線溝設置事業 26.甲府山梨線整備事業《甲府城跡》
 27.林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舍解体事業 28.南アルプス警察署三田駐在所改築事業
 29.県営住宅寿団地下水道接続事業 30.県営住宅身延第二団地下水道接続事業 31.山梨県防災新館建設事業《甲府城跡》
 32.県立かえで支援学校分教室改修事業《狐原遺跡》 33.県立かえで支援学校建設事業《狐原遺跡》
 34.県立園芸高等学校施設整備事業《狐原遺跡》 35.県立谷村工業高等学校施設整備事業《三ノ側遺跡》
 36.県立甲府東高等学校治水対策事業 37.県立北杜高等学校緊急修繕事業 38.平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》
 39.森林公園金川の森再整備事業《宮の上遺跡》

1 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町富士字峯地内）

所在地	南部町富士字峯4006外地内	調査期間	平成24年 1月19日～ 23日
担当者	保坂和博	調査面積	34㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、地元では臨済宗古寺の伝承地として知られており、また現茶畑や竹林地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月19日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

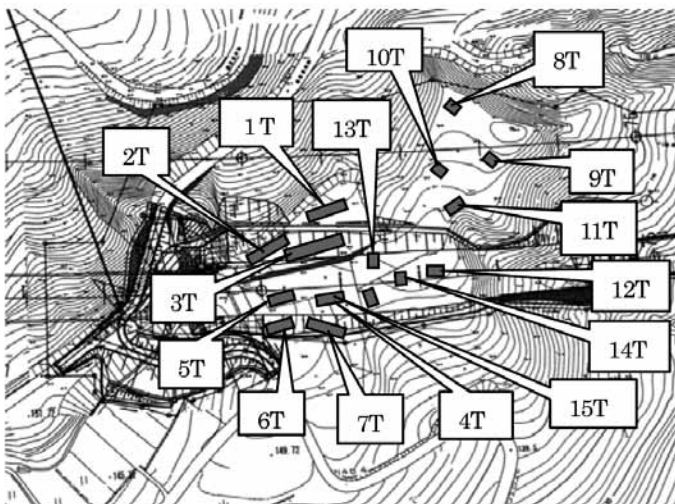
本地点の試掘調査は、平成23年11月2日～4日から継続して行われており、長さ約2.0～15.0m、幅約1.2m、深さ約0.4～1.4mのトレンチ（試掘溝）を15箇所(1T～15T)設定し、重機及び人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約10～60cmまでは竹林や杉林と茶畑などの耕作土が堆積し、その直下に地山のローム層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



6T土層堆積状況



9T土層堆積状況



12T土層堆積状況

2 中部横断自動車道建設事業 試掘（市川三郷町黒沢字洗平地内）

所在地	市川三郷町黒沢字洗平2157-4外地内	調査期間	平成24年1月10日～11日
担当者	保坂和博	調査面積	65㎡

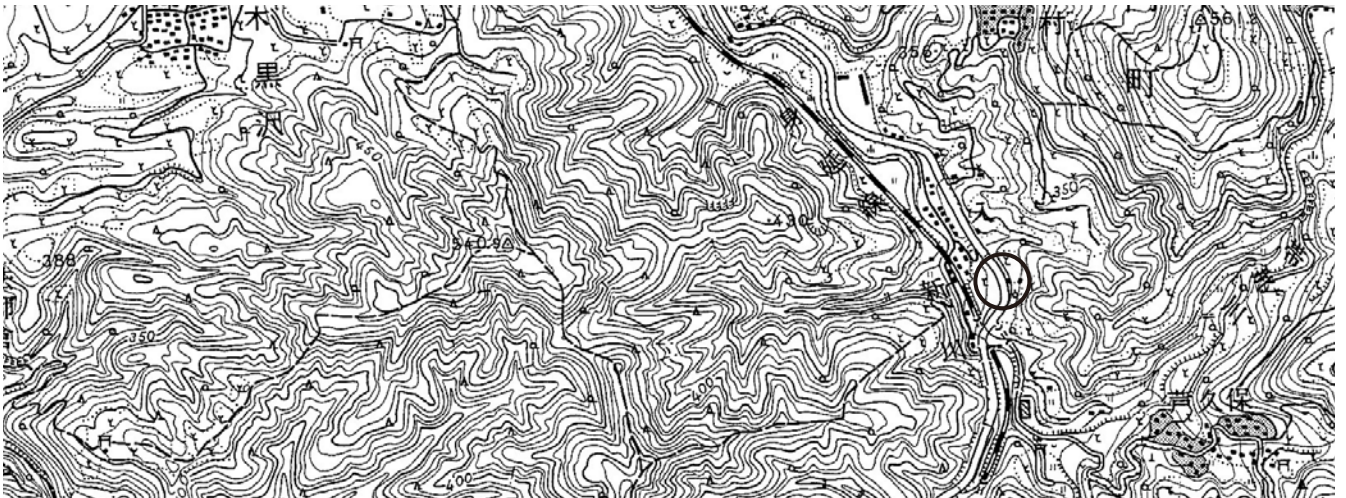
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地は、山間を北流し富士川へ合流する新川右岸一帯に広がる緩斜面にあり、標高290m前後を測る。新川に沿って走るJR身延線と県道市川三郷身延線に挟まれたこの一帯には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、この区域が河川に面した緩斜面という立地にあることから、平成23年9月14日～15日に試掘調査を実施しているが、一部に用地の引渡し完了していない場所があり、改めて試掘調査を行うこととなっていたため、今回実施した。

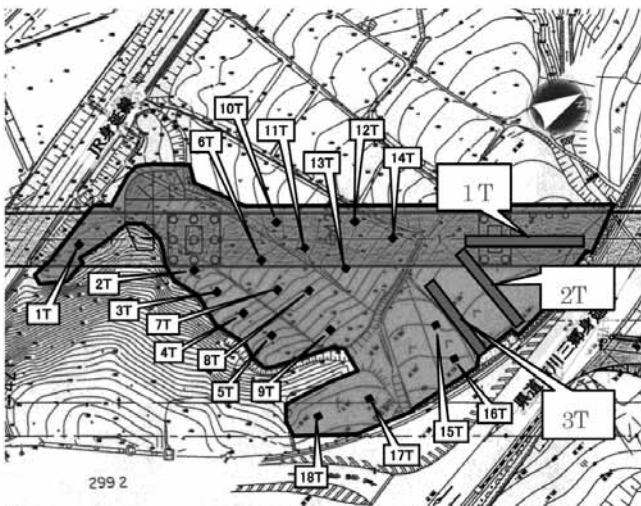
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約16.0～17.0m、幅約1.3m、深さ約1.0mのトレンチ（試掘溝）を3箇所（1T～3T）設定し、重機によりそれぞれ掘削した後、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、9月に実施した15号トレンチ及び16号トレンチと同様に表土層と地山層の間に黒色や鈍い褐色系の粘土層の堆積が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況1



1T土層堆積状況2



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

3 中部横断自動車道建設事業 試掘（市川三郷町岩間地内）

所在地	市川三郷町岩間726外地内	調査期間	平成24年1月12日～17日
担当者	保坂和博	調査面積	144㎡

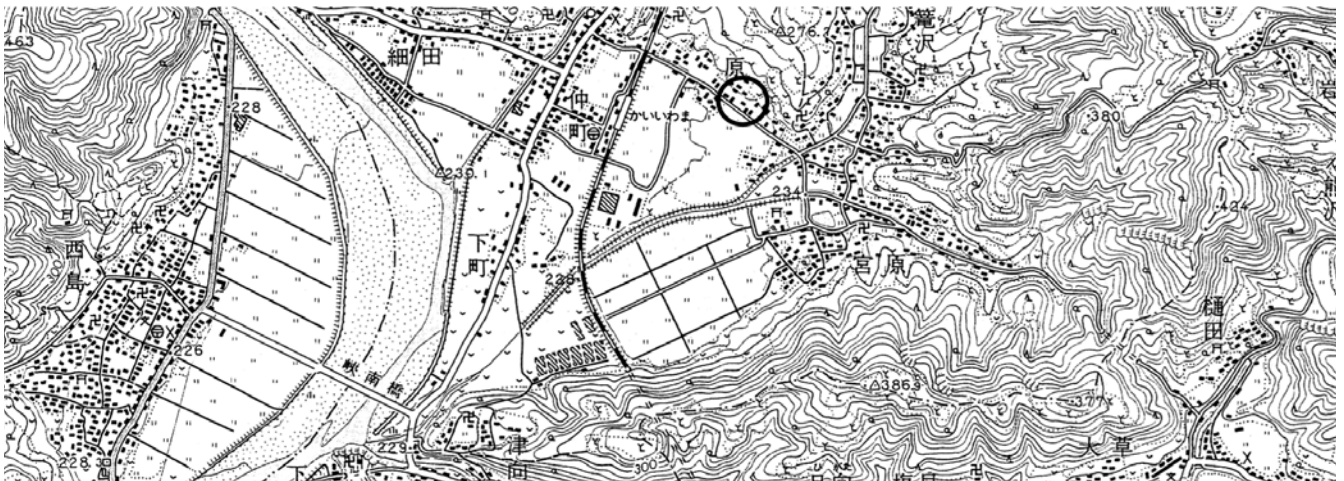
調査経緯及び事業内容と結果

事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川・葛籠沢川に挟まれた地域にあり、町道沿いの平地で標高230m前後、山側の傾斜地で標高238m前後を測る。予定地一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、この区間が傾斜地から平地にかけて広範囲に及ぶことから、平成23年7月25日～27日に試掘調査を実施しているが、一部に用地の引渡しが完了していない場所があり、改めて試掘調査を行うこととなっていたため、今回実施した。

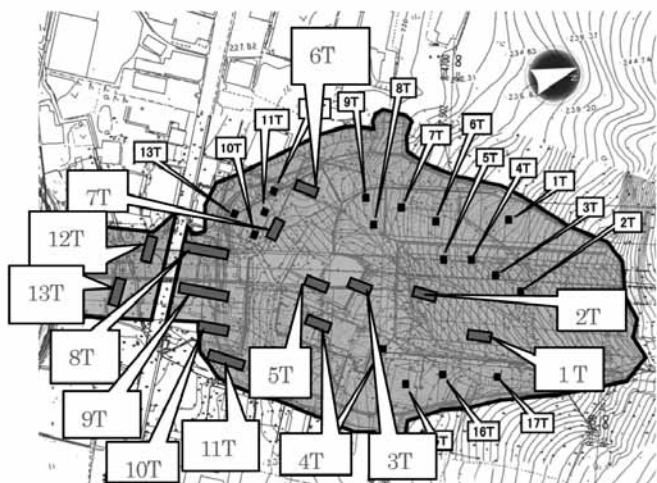
今回の試掘調査では、引き渡し完了した用地内に長さ約6.8～14.0m、幅約1.3m、深さ約0.6～1.0mのトレンチ（試掘溝）を13箇所設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、7月に実施した試掘調査の北西山側緩斜面の畑地部分（1T～4T）との堆積状況同様に第1層（黒褐色土）、第2層（青灰色土）、第3層（明黄褐色土）、第4層（黄灰色土）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況1



4T土層堆積状況



8T土層堆積状況



13T土層堆積状況

4 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町富士字真篠地内）

所在地	南部町富士字真篠地内	調査期間	平成24年1月24日～25日
担当者	保坂和博	調査面積	34㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地が中世後半に築かれた山城である県指定史跡真篠上跡に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約1.5～4.2m、幅約1.0～2.3m、深さ約0.2～0.6mのトレンチ（試掘溝）を12箇所（1T～12T）設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、道部分（1～4号トレンチ）、平坦部分（5～7号トレンチ）、尾根部分（8～12号トレンチ）で異なる状況である。1～4号トレンチでは、表土下5～30cm前後までは道を覆う腐食土層などが堆積し、その下層は地山となるローム層及び岩盤層となる。5～7号トレンチでは、地表下40cm前後までは安定した褐色土層が堆積し、その下層はローム層が確認された。8～12号トレンチでは、表土層直下に岩盤層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



3T土層堆積状況



7T土層堆積状況



9T土層堆積状況

5 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町富士字矢島地内）

所在地	南部町富士字矢島4866外地内	調査期間	平成24年2月1日～9日
担当者	保坂和博	調査面積	340㎡

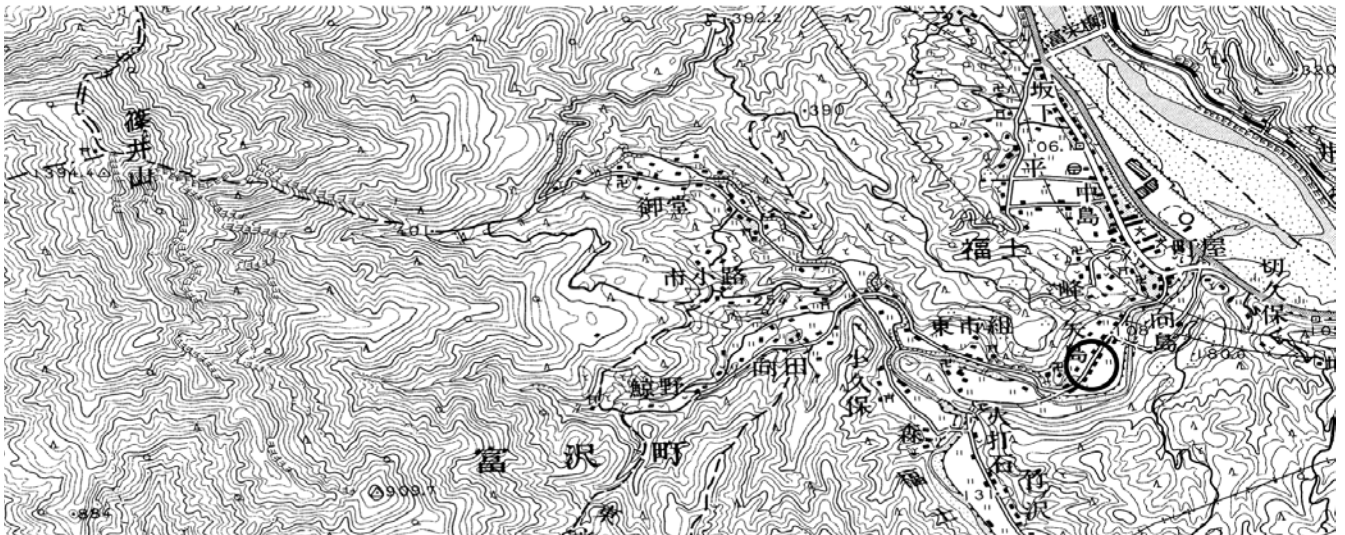
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、富士川左岸に広がる氾濫原にあり、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成23年4月19日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

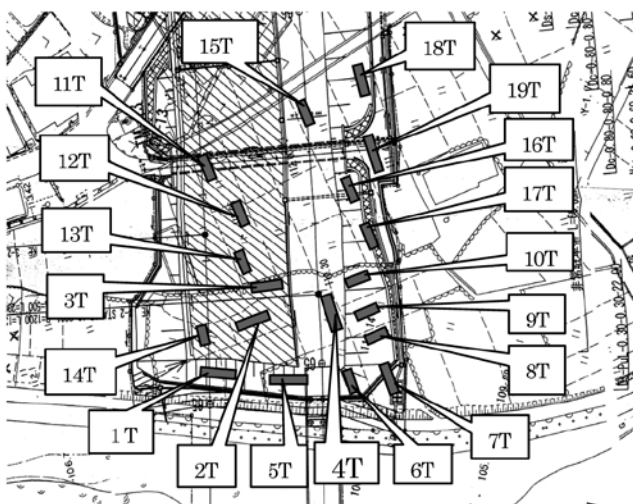
今回の試掘調査では、長さ約9.0～11.0m、幅約2.0m、深さ約0.3～2.2mのトレンチ（試掘溝）を19箇所（1T～19T）設定し、重機及び人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



7T土層堆積状況



12T土層堆積状況



19T土層堆積状況

6 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町富士字矢島地内）

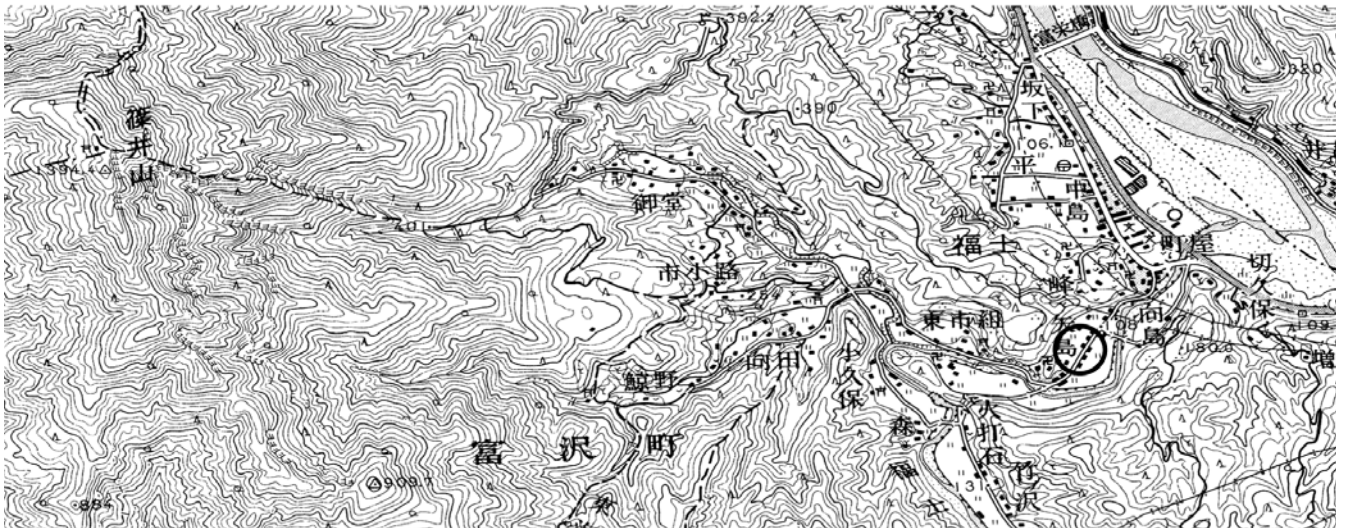
所在地	南部町富士字矢島4969外地内	調査期間	平成24年9月10日～12日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	130㎡

調査経緯及び事業内容と結果

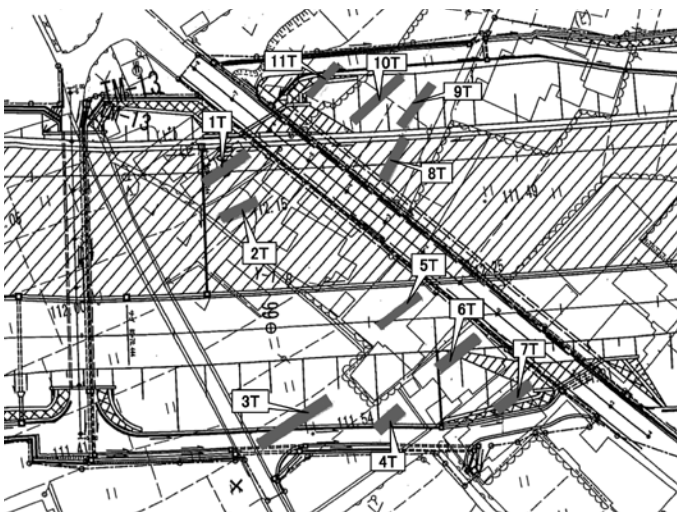
本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、富士川左岸に広がる氾濫原にあり、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年7月20日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、引き渡し完了した用地内に長さ約8.0～17.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～2.0mのトレンチ（試掘溝）を11箇所（1T～11T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約30cm～1m前後までは現代の水田の耕作土や床土及び埋土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



3T土層堆積状況



6T土層堆積状況



8T土層堆積状況

7 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町富士字平地内）

所在地	南部町富士字平3150外地内	調査期間	平成24年2月27日～28日
担当者	保坂和博	調査面積	110㎡

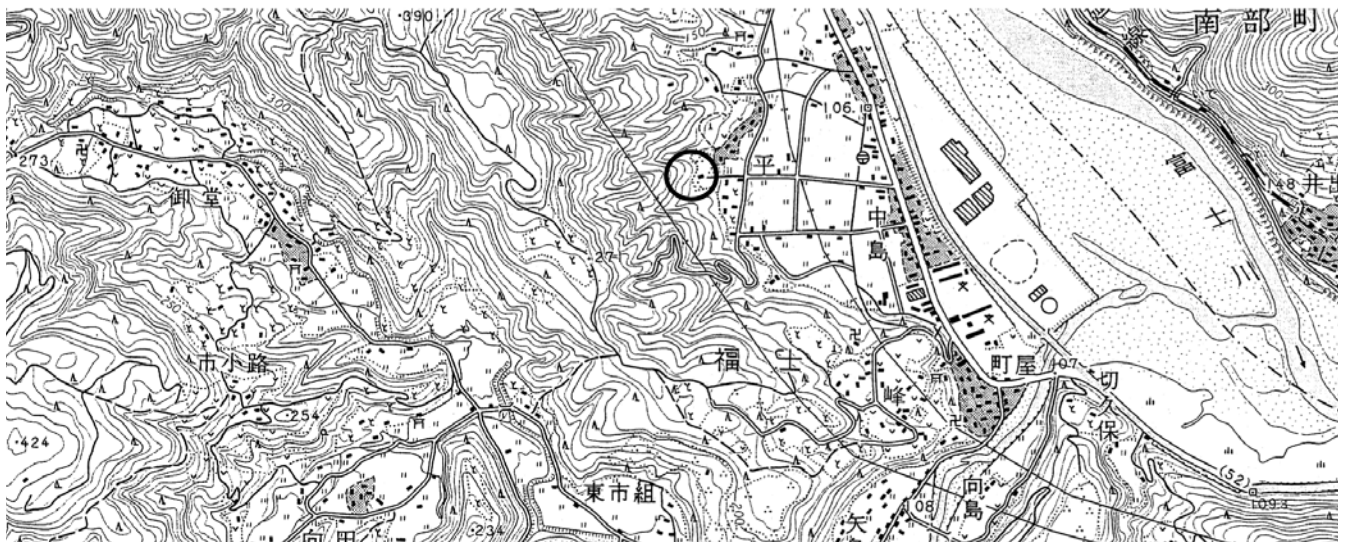
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、西側の山地から東流し富士川へ合流する沢の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

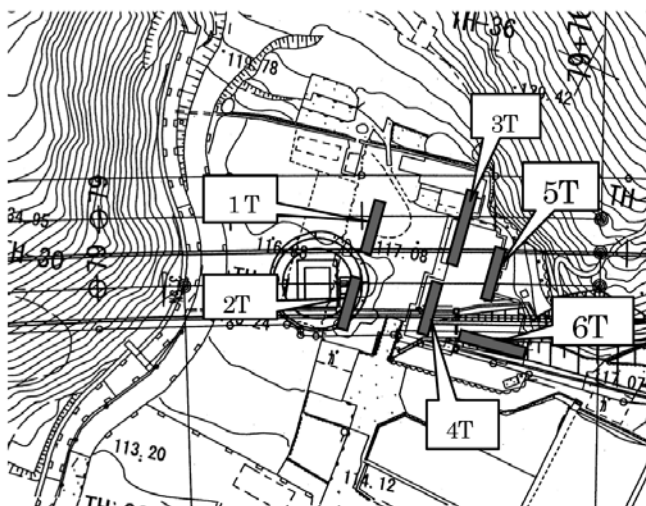
今回の試掘調査では、引き渡し完了した用地内に長さ約7.5～11.0m、幅約2.0m、深さ約1.0～1.6mのトレンチ（試掘溝）を6箇所（1T～6T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約0.3～1.0mまでは埋土が堆積し、その直下から地山となるローム層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



5T土層堆積状況



6T土層堆積状況

8 中部横断自動車道建設事業 試掘（南部町富士字平地内）

所在地	南部町富士字平3154外地内	調査期間	平成24年9月13日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	59㎡

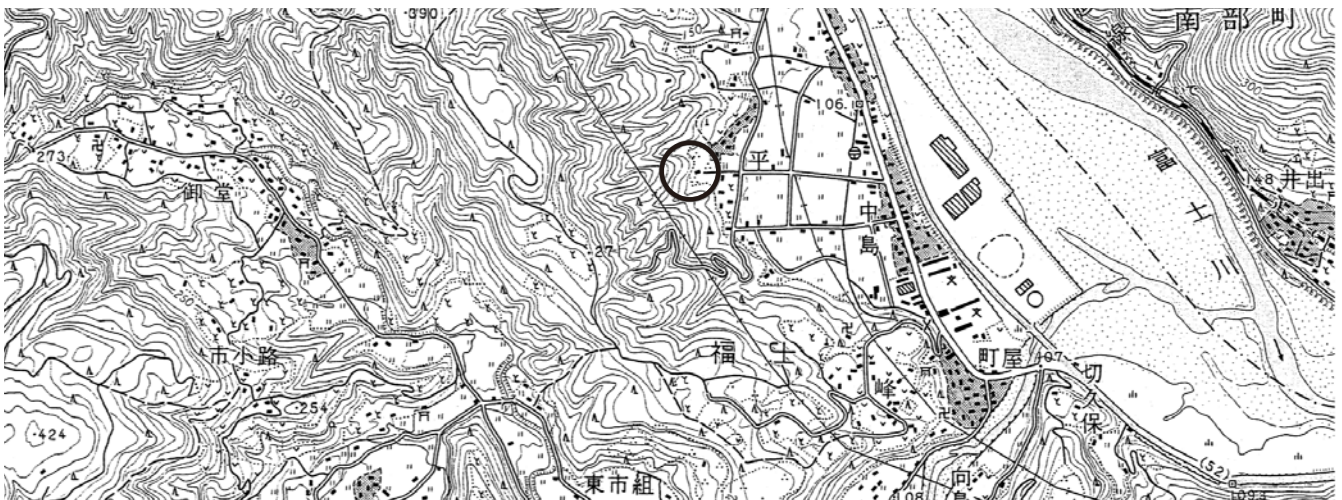
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、西側の山地から東流し富士川へ合流する沢の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年7月20日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

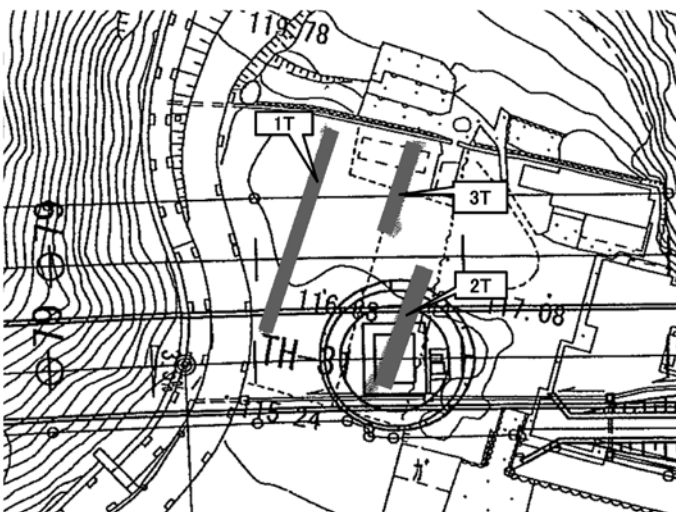
今回の試掘調査では、引き渡し完了した用地内に長さ約9.6～21.5m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.0mのトレンチ（試掘溝）を3箇所（1T～3T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約20～70cmまでは耕作土（畑地）や埋土（第1層～第4層）が堆積し、その直下から地山層（第5層～第8層）が確認された。また、湧水によるグライ化が第8層に確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業事業位置図 備事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



2T完掘状況



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況

9 中部横断自動車道建設事業 試掘（市川三郷町落居地内）

所在地	市川三郷町落居6806外地内	調査期間	平成24年9月14日～20日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	73㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川の左岸にあり、JR身延線沿いの低地で標高220m前後を測る。予定地に隣接する南側一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地「一の坪遺跡」の範囲に含まれることから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年7月20日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

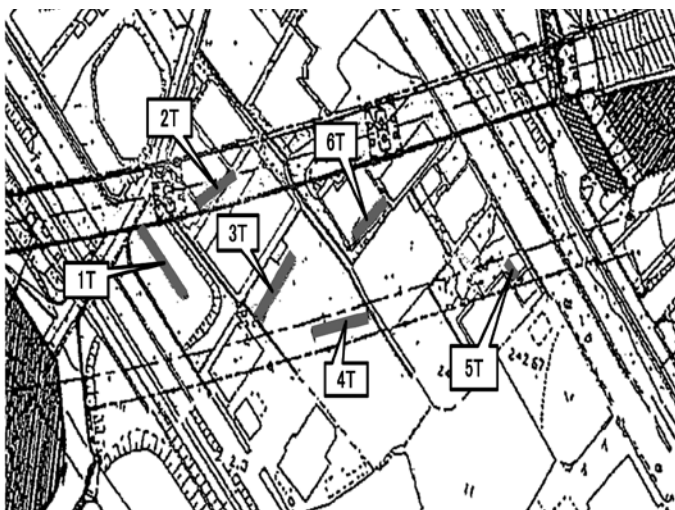
今回の試掘調査では、引き渡し完了した用地内に長さ約5.7～15.0m、幅約1.0m、深さ約1.7～2.2mのトレンチ（試掘溝）を6箇所（1T～6T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

調査地は、JR身延線沿いの宅地であり、地表下約0.2～1.1m前後までは盛土や攪乱層（第1層～第4層）が堆積し、その直下から氾濫による河川堆積層（第5層～第8層）が確認された。なお、1号トレンチでは、地表下約2.2cmまでに及ぶ廃棄物による攪乱層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業事業位置図 備事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



4T土層堆積状況



5T土層堆積状況



6T土層堆積状況

10 中部横断自動車道建設事業 試掘（身延町下山地先）

所在地	身延町下山地先	調査期間	平成24年7月4日～5日、24日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	949㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、中部横断自動車道建設事業によって生じた残土置場及び残土を利用した築堤を建設する事業である。周知の埋蔵文化財包蔵地である下山堤防遺跡の範囲に当たる残土置場の一部は、平成20年に身延町教育委員会により砂利採取工事の際に試掘調査が実施され、堤防の痕跡がないことを確認している。この範囲を除いた今回の試掘調査対象地は、下山堤防遺跡の隣接地に当たり工事による盛土の高さが3m以上となることから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、大新工業株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年6月25日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

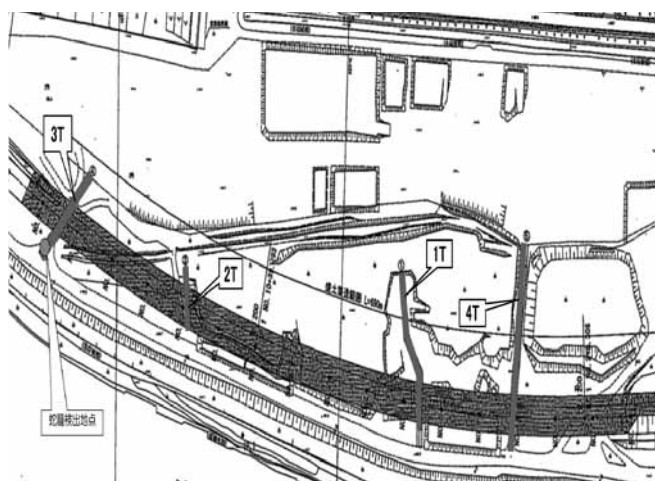
今回の試掘調査では、現堤防に影響を与えない場所を選定し、長さ約41.0～123.0m、幅約3.0m、深さ約1.4～3.0mのトレンチ（試掘溝）を4箇所（1T～4T）設定し、重機により掘削後、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層堆積状況では、1号トレンチで地表下約10～70cm、2号トレンチで地表下約50～100cm、3号トレンチで地表下約70～170cm、4号トレンチで地表下約50～190cmまで埋土（ズリ石など）が堆積し、その直下に河川堆積によるシルト層、砂層、砂礫層が確認された。3号トレンチ東側（富士川寄り）では金網製のかご状構造物の内部に自然石を中詰めした現代の蛇籠が2本確認され、残存長は7.2m（上流側）と6.2m（下流側）を測る。

試掘調査の結果、現代の蛇籠の外には堤防の痕跡は確認できず、遺物も流れ込みと考えられるもの以外の出土はなかったことから、今回の試掘調査範囲においては、工事に着手しても差し支えないと判断されるが、工事予定地内の現堤防部分については、旧堤防が遺存する可能性があるため掘削する際に立会調査を行う旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



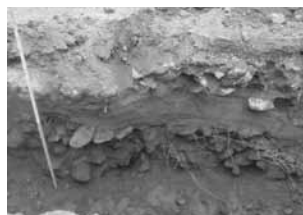
第2図 試掘トレンチ配置図 備事業位置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T蛇籠検出状況



4T土層堆積状況

11 国道52号改良事業 試掘 (甲府市上石田一丁目地内)

所在地	甲府市上石田一丁目12-5外地内	調査期間	平成24年1月5日～6日
担当者	保坂和博	調査面積	142㎡

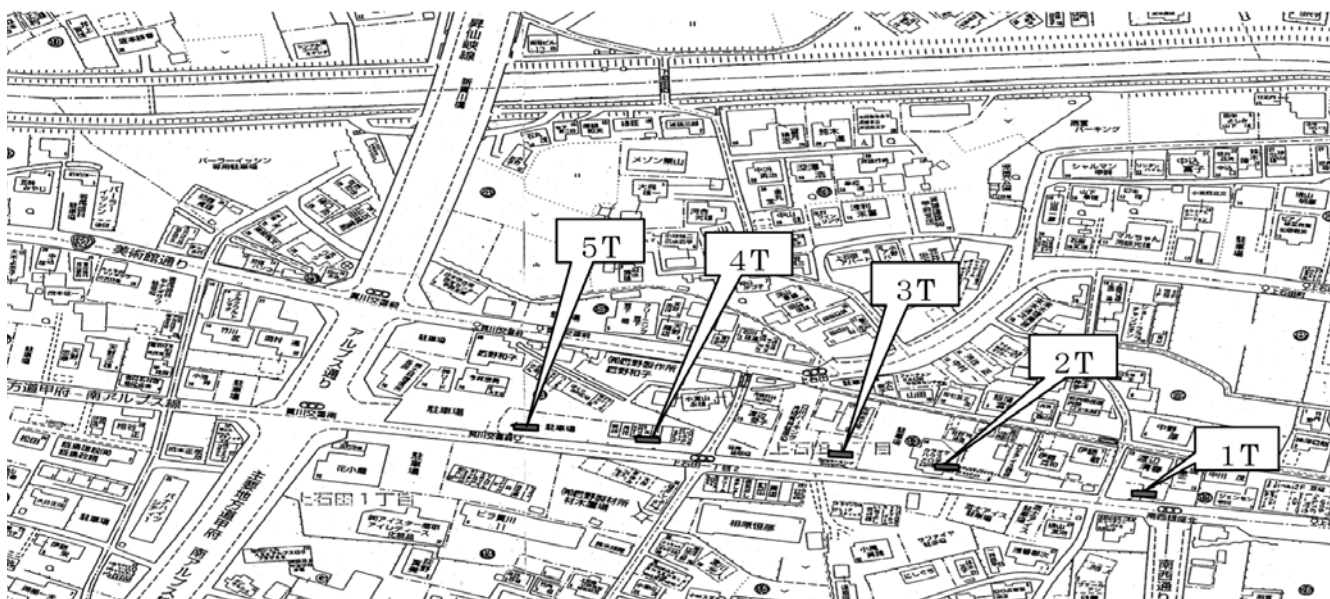
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、国道52号改良事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地である上石田遺跡があり、現住宅地域として平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（甲府出張所）との現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約6.0～8.0m、幅約1.2m、深さ約0.9～2.0mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（1T～5T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、表土下約90cm前後までは埋土層、甲府空襲層、旧水田耕作土及び床土層の層順が確認され、その直下から荒川の氾濫による砂礫層が確認されたが、2号トレンチと5号トレンチでは、甲府空襲層を削平する形で埋土層が厚く堆積している状況である。

試掘調査の結果、1号トレンチの砂礫層で検出された流れ込みと考えられる平安時代の土器片以外は、遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 国道52号改良事業に係る試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況

3T土層堆積状況

4T土層堆積状況

5T土層堆積状況

12 国道411号改良事業 試掘 《大門後遺跡》

所在地	①甲州市勝沼町休息1612外、②等々力1430外、 ③山1140外地内	調査期間	①平成24年10月29日～30日、②12月3日～4日、 ③12月5日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	①46㎡、②23㎡、③16㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、国道411号改良事業に伴う道路拡幅工事である。今回の事業予定地となる甲州市勝沼町等々力から山地内については、周知の埋蔵文化財包蔵地である大門後遺跡の範囲内や大塚南遺跡などの隣接地にあたることから、平成24年10月11日に行った峡東建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、引渡し完了した用地内の3箇所を対象として試掘調査を実施した。

1) 甲州市勝沼町休息1612外地内

今回の試掘調査では、長さ約3.2～6.4m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.6mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（用地外の隣接地で行われていた看板の基礎布設用の縦坑を2号トレンチとして含む）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、基本的に同様であり地表下約10～80cmまで埋土層（第1層～第4層）が確認され、その下層に自然堆積層（第4層～第9層）が確認された。

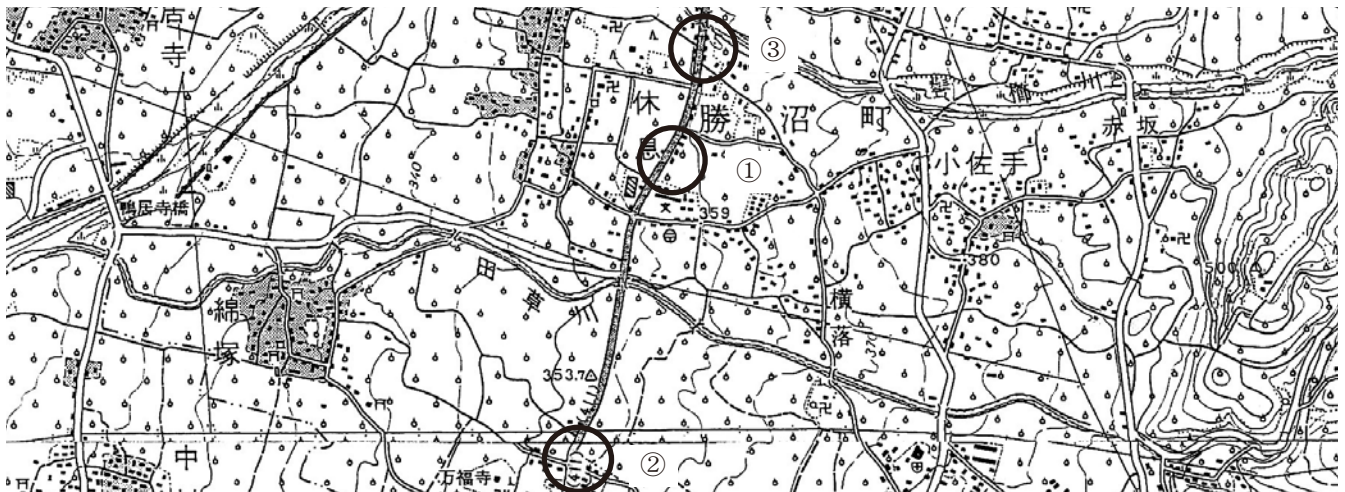
試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、また各トレンチの砂礫層（第9層）からは、摩滅した平安時代の土器の小破片が僅かに出土しているが、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みの遺物と判断されるため、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

2) 甲州市勝沼町 等々力1430外地内

今回の試掘調査では、長さ約6.1～9.7m、幅約1.0m、深さ約0.7～1.0mのトレンチ（試掘溝）を3箇所（1T～3T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、基本的に同様であり地表下約40～90cmまで埋土層（第1層～第5層）が確認され、その下層に明治期以降の文化層（第6層）、さらに河川堆積物層の角礫混じりの褐色土層（第7層）と褐色砂質土層（第8層）の層順が確認された。また、1号トレンチでは、表土層下（第2層～第6層）に明治期以降の埋甕が出土し、口縁部から胴部上半の破片が器内に落ち込んでいる状況が確認された。

試掘調査の結果、明治期以降の埋甕が出土しているが、山梨県埋蔵文化財保護要項に基づき、これらは本地域における保護措置の必要性はないものと判断されるため、今回の試掘調査地点では工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 国道411号改良事業位置図

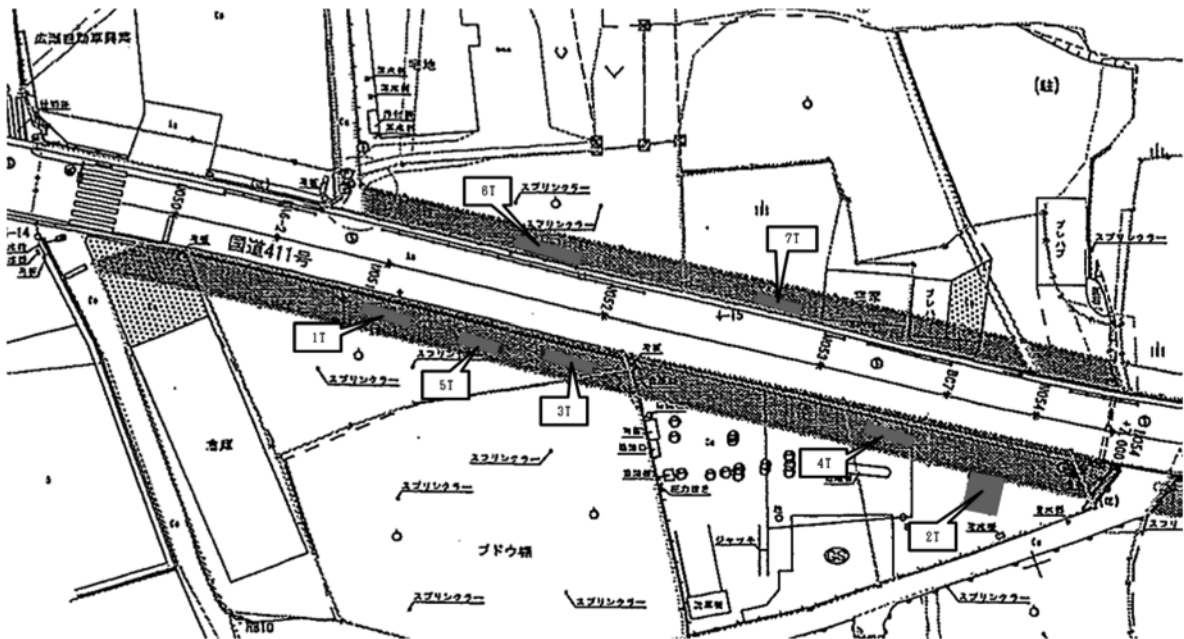
3) 甲州市勝沼町 山1140外地内

今回の試掘調査では、長さ約9.3m、幅約1.7m、深さ約2.8mのトレンチ（試掘溝）を1箇所設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

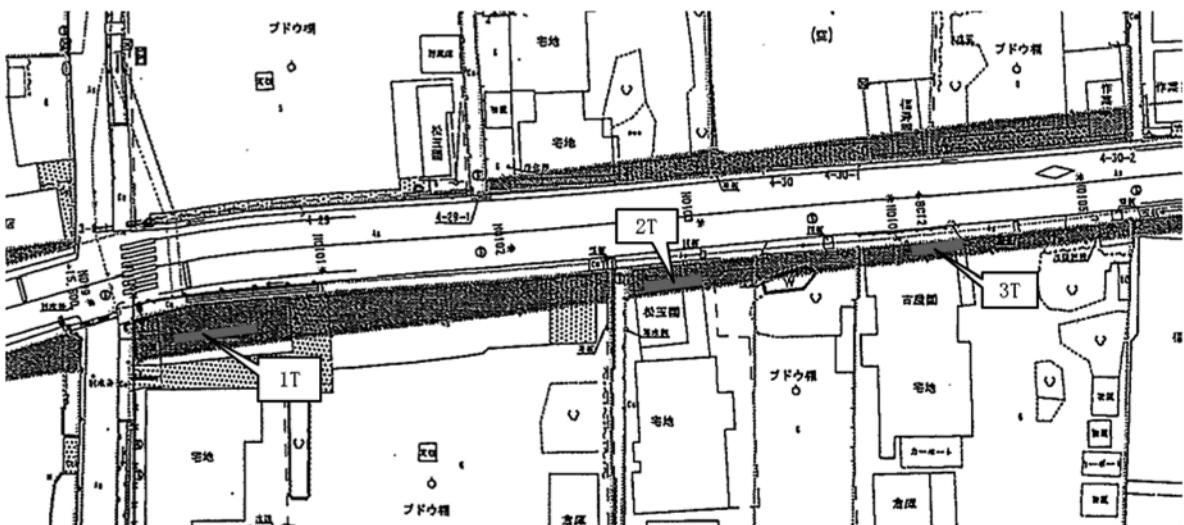
土層の堆積状況は、地表下約1.8mまで道路建設時の整地層（第1層～第6層）が確認され、その下層に旧表土層（第7層）、さらに河川堆積層（第8層～第9層）が確認された。

試掘調査の結果、遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の試掘調査地点においては、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

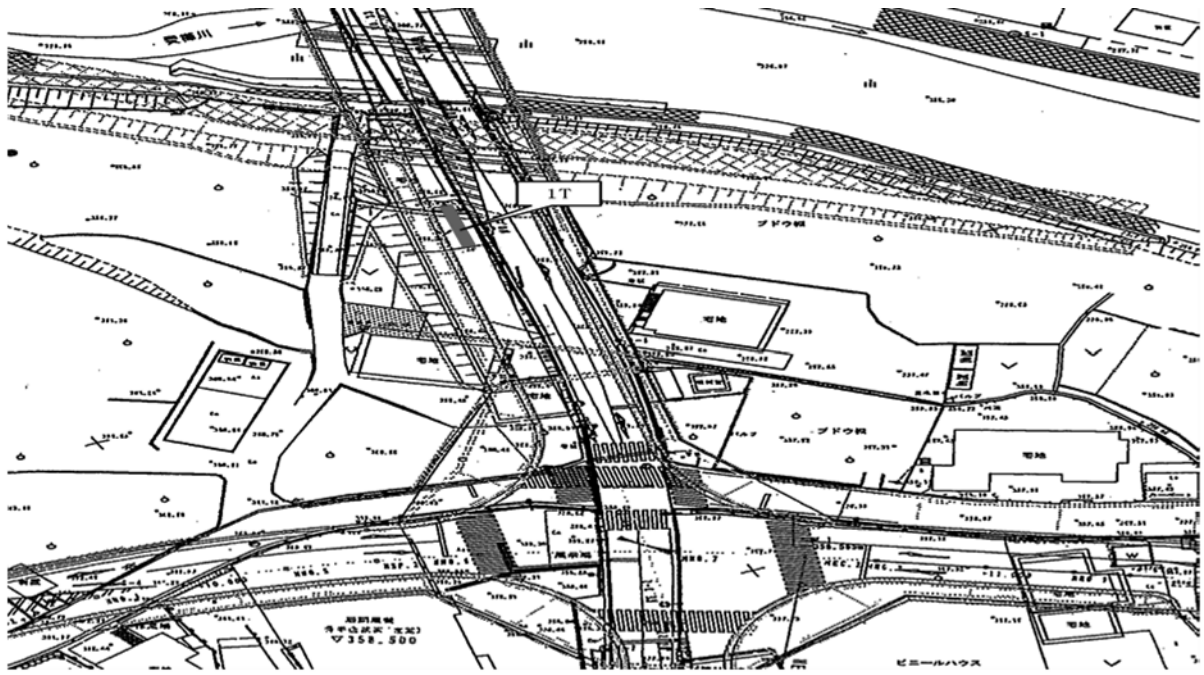
なお、今回の事業予定地となる甲州市勝沼町等々力から山内内については、今回の試掘対象地内で未引渡し等により試掘調査が実施出来なかった地点（山交差点付近など）を今後改めて協議の上、埋蔵文化財保護の対応を図る必要がある旨を報告した。



第2図 休息地区 試掘トレンチ配置図



第3図 等々力地区 試掘トレンチ配置図



第4図 山地区 試掘トレンチ配置図



休息地区 1T土層堆積状況



休息地区 4T土層堆積状況



休息地区 7T土層堆積状況



等々力地区 1T土層堆積状況



等々力地区 2T土層堆積状況



等々力地区 3T土層堆積状況



山地区 1T完掘状況



山地区 1T土層堆積状況1



山地区1T 土層堆積状況2

13 山梨リニア実験線建設事業 試掘 《柚木遺跡》

所在地	笛吹市八代町竹居1211外地内	調査期間	平成24年12月13日～14日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	32㎡

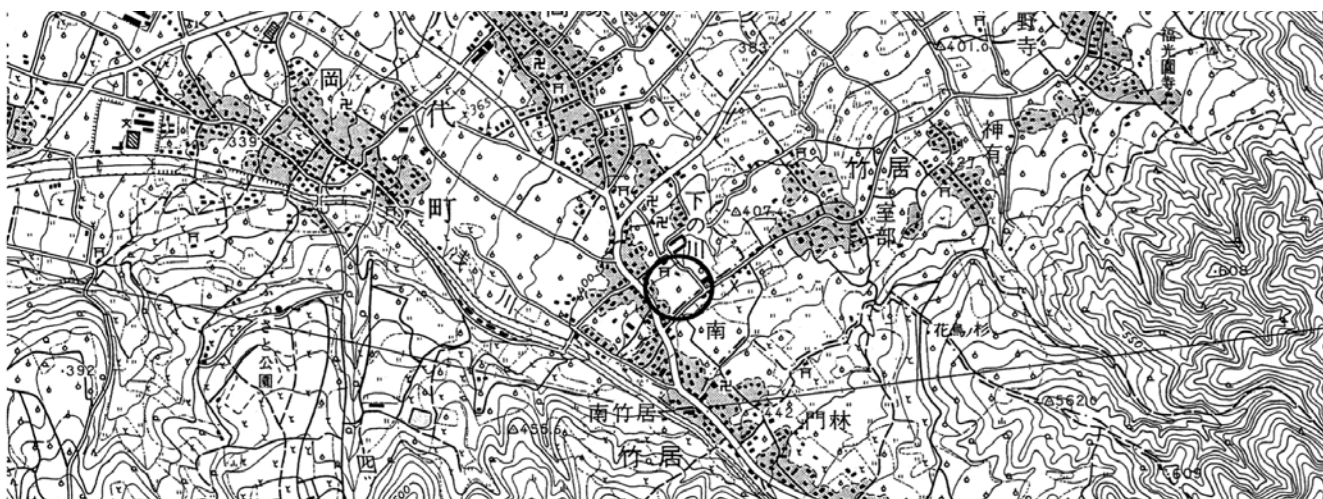
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、山梨リニア実験線建設事業に伴う機能回復道路を建設する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡の範囲に当たることから、平成24年11月12日に行った鉄道・運輸機構、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

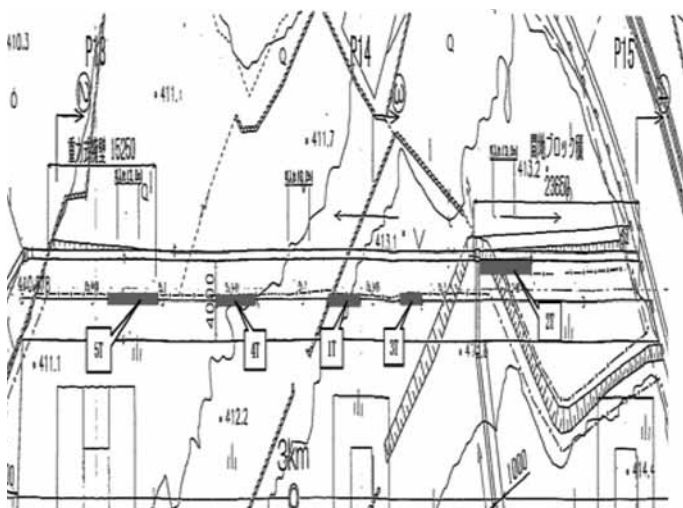
今回の試掘調査では、長さ約4.5～8.0m、幅約1.0m、深さ約0.8～1.9mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（1T～5T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、基本的に同様であり地表下約20～40cmまで工所用道路の石砕が敷設され、その下に養生シートを挟んで、硬くしまった厚さ約20～40cmの旧表土（耕作土）層となり、さらに黒褐色土層（第3層）、褐色土層（第4層～第6層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、3号トレンチ第2層（旧耕作土層）から縄文時代の土器片が1点出土したのみで、これまでに本地点の近接する範囲で行われた試掘調査でも同様に希薄な出土状況がみられ、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みと判断されたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 山梨リニア実験線事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T完掘状況



4T完掘状況



5T土層堆積状況

14 甲府駅南口修景計画事業 試掘 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市丸の内二丁目地内	調査期間	平成24年6月4日～5日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	16㎡

調査経緯及び事業内容と結果

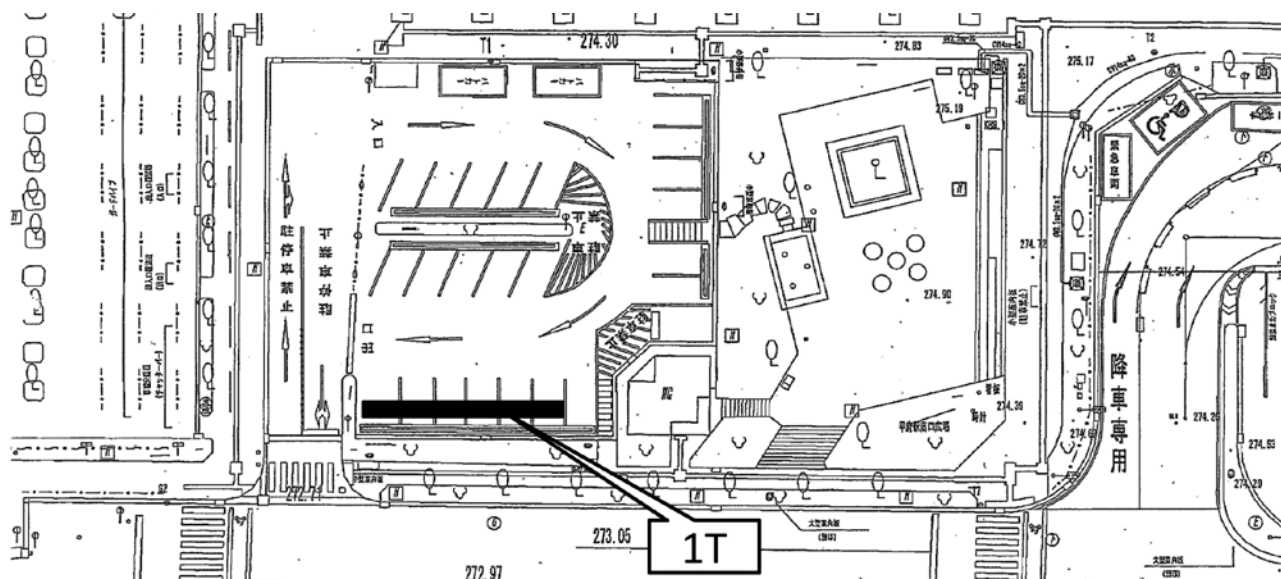
事業予定地は、相川扇状地の扇端部、相川の中下流左岸に位置し、標高272mを測り、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たり、また平成14年に甲府駅周辺土地区画整理事業に伴う本調査（以下、43街区調査）も行われていることから、平成24年5月9日に行われた中北建設事務所都市計画課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約16.0m、幅約1.0m、深さ約1.5mのトレンチ（試掘溝）を1箇所(1T)設定し、重機により掘削した後に、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、アスファルト層(第1層)直下に、現代の造成層の碎石層(第2層)、褐色山砂層(第3層)、灰オリープ山砂層(第4層)が確認された。トレンチ東側で限定的にオリープ褐色砂礫層(第5層)がみられ、さらにトレンチ全体に43街区調査で検出した黒褐色土層(第6層：発掘Ⅳ層)、オリープ黒色土層(第7層：発掘Ⅴ層)、青黒色土層



第1図 甲府駅南口修景計画事業位置図



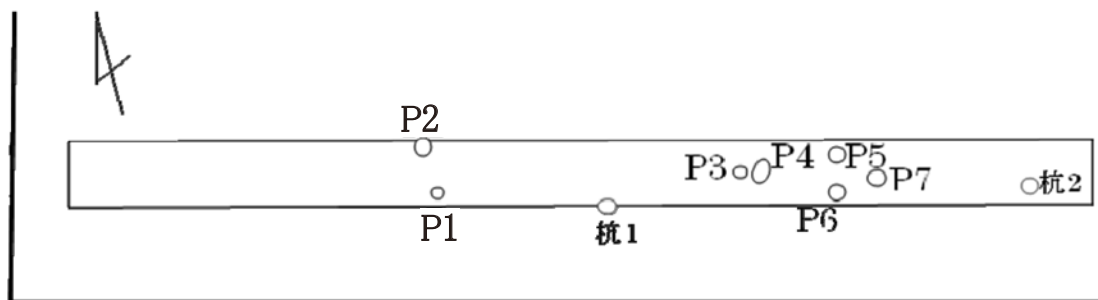
第2図 試掘トレンチ配置図

(第8層：発掘VI層)の層順が確認された。

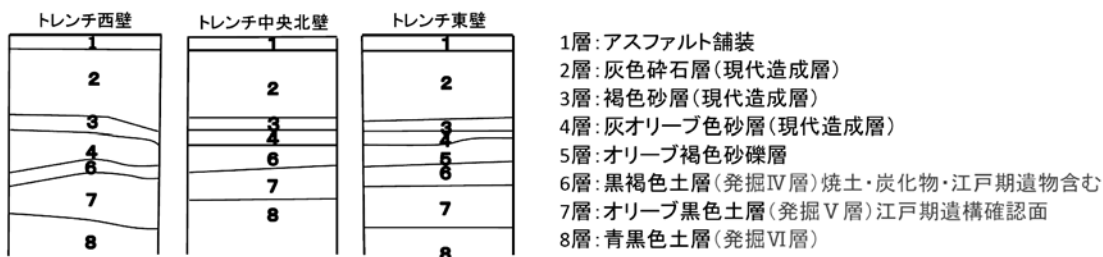
遺構及び遺物の検出状況は、黒褐色土層(第6層：発掘IV層)から時期不明の溝状遺構1条、焼土・炭化物・江戸期の土器と陶器片、オリーブ黒色土層(第7層：発掘V層)上面から時期不明の杭2本、江戸期のピット7基と土器片がそれぞれ確認されている。

試掘調査の結果、江戸時代の遺物包含層(第6層)と同期の遺構面(第7層)が確認された。遺物包含層(第6層)の厚さは約10cm、遺構確認面(第7層)までの深さは、現地表面から約80cmとなる。

以上のことから、本事業予定地においては工事着手前に埋蔵文化財の保護に努める必要がある旨を報告した。



第3図 遺構配置図 (7層上面：発掘V層上面)



第4図 基本土層図



トレンチ西側完掘状況 (東から)



トレンチ東側完掘状況 (西から)



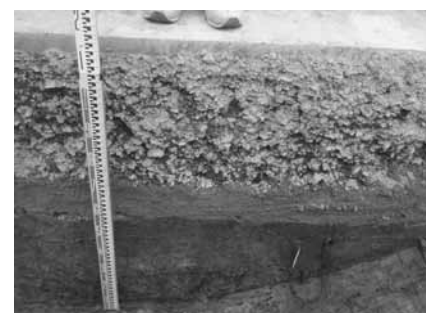
3～4号 ピット検出状況



トレンチ西端土層確認状況 (東から)



トレンチ東端土層確認状況 (西から)



1号 杭検出状況

15 甲府駅南口周辺地域修景計画事業 試掘確認調査《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目9番地内	調査期間	平成24年12月1日～8日
担当者	野代幸和 長田隆志	調査面積	約36㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、当該事業により影響を受ける可能性がある埋蔵文化財の確認調査を基本とし、併せて当事業に必要なデータ収集と提示を行うと共に、隣接する舞鶴城公園部分が県指定史跡であることに鑑み、堀跡の石垣など地下遺構の残存状況について文化財保護を視野に入れた成果を求めることを目的に調査を実施することとなった。学術文化財課と都市計画課・管財課で事前協議を実施し、当該日の工程で対応することで調整を行い、調査を行った。西側より既存構造物を避けながら①・②・③の順番でトレンチを設定した(第2図)。

西側①トレンチでは現況地盤面下560mmまで掘削を実施したところ旧建物の基礎にあたり、遺構は確認できなかった。中央②トレンチでは現況地盤面下410mmまで掘削を実施したところ旧建物の基礎が認められ、遺構は確認できなかった。ただし、一部掘削可能な地点を1400mmまで掘り下げたが、埋設管が認められ、堀は確認できなかった。東側③トレンチでは現況地盤面下2200mmまで掘り下げたところ、堀の覆土を確認した。石垣が想定される付近には既存の水道管があったことから掘削ができなかったため確認できなかった。

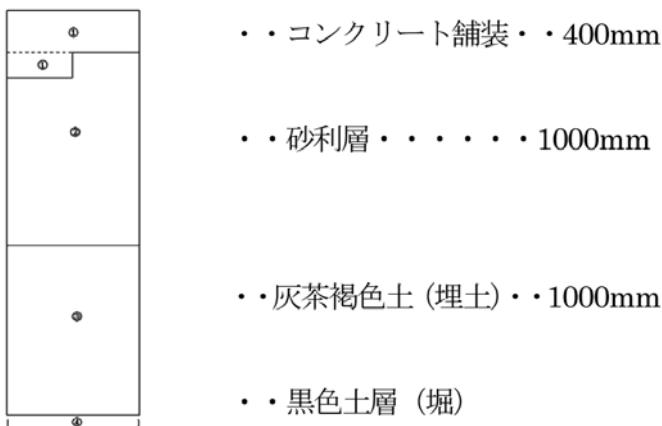
今回の調査では、明確な遺構・遺物ともに確認できなかったが、既存建物の基礎解体工事など地下に影響を及ぼす際には特に注意が必要であり、撤去工事時に立会を、撤去後には本格的な調査が必要である。



第1図 甲府駅南口周辺地域修景計画事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



③トレンチ土層断面図



③トレンチ土層確認状況

16 リニア見学センター再整備事業 試掘（都留市川茂字上揚久保地内）

所在地	都留市川茂字上揚久保502外地内	調査期間	平成24年11月1日～9日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	223㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、リニア見学センター再整備事業における駐車場造成及び拡張に伴う外周擁壁などを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である揚久保遺跡及び中谷遺跡などに近接することから、平成24年10月9日に行ったりニア推進課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき試掘調査を実施した。

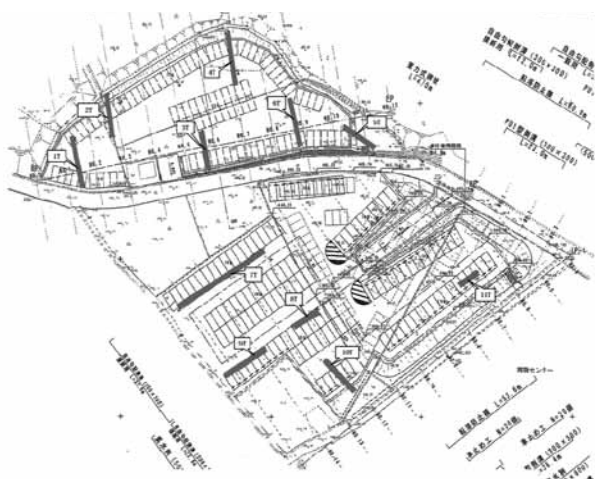
今回の試掘調査では、長さ約8.6～34.6m、幅約1.0m、深さ約1.9～2.9mのトレンチ（試掘溝）を11箇所（1T～11T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、傾斜地上部（駐車場新設予定地）の1～6号トレンチでは地表下1m前後まで埋土層（第1層～第3層）が堆積し、その下層に地山層となる第5層～第12層が確認された。また、各トレンチの現表土下（畑地）の第2層及び第3層から掘り込まれた攪乱が広範囲にわたり確認された。傾斜地下部（駐車場拡張予定地）に設定した7～10号トレンチでは、地表下約170～250cmまで埋土層（第1層～第3層）が堆積し、その下層に地山層（第4層）が確認された。11号トレンチでは、地表下約160cmまで埋土層（第1層～第3層）が堆積し、その下層に地山層となる第4層～第7層が確認され、さらに第4層上面から掘り込まれた攪乱が確認された。

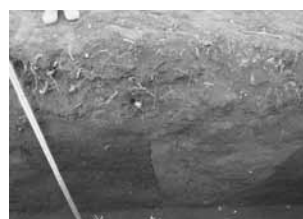
試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、6号トレンチ第6層から黒曜石片1点が出土したのみで、希薄な出土状況から周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みと判断される。以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 リニア見学センター再整備事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



5T土層堆積状況



7T土層堆積状況



11T土層堆積状況

17 県営住宅大月団地建替事業 試掘 《丹後屋敷》

所在地	大月市駒橋一丁目5-2地内	調査期間	平成24年6月13日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	7㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県営住宅大月団地建替事業に伴う試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である丹後屋敷の範囲に当たることから、平成24年4月11日に行った建築住宅課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき試掘調査を実施した。

今回の調査では、長さ約2.8～3.4m、幅約1.1m、深さ約1.1～1.3mのトレンチを2箇所（1T～2T）設定し、重機により掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

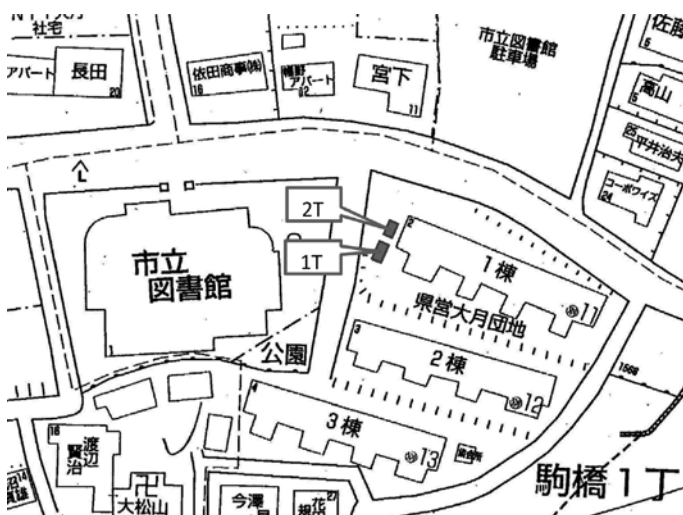
土層の堆積状況は、1号トレンチの攪乱層（第2層）以外は、両地点ともに表土層（第1層：にぶい黄褐色土層）の下に地表下約10～120cm前後まで事業地南側に立地する菊花山を供給源とする地滑り層（第3層：褐色土層、第4層：黒褐色土層）が堆積し、その直下から地山層（第5層：にぶい黄褐色土層）が確認された。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されず、また1号トレンチの地滑り層（第4層）からは、摩滅した土器の小破片が1点出土しているが、周辺地域に所在する遺跡からの流れ込みの遺物と判断される。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 県営住宅大月団地建替事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T完掘状況



1T土層堆積状況



2T完掘状況



2T土層堆積状況

18 東部地域総合制高校建設事業 試掘 《三ノ側遺跡》

所在地	都留市上谷5-7-1地内	調査期間	平成24年7月25日～8月3日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	186㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、東部地域総合制高校建設事業に伴う県立谷村工業高等学校の敷地内における埋蔵文化財の試掘調査である。

本校校舍建設予定地エリアについては、平成23年12月1日から9日にかけて実施した試掘調査により、隣接する県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う本調査（以下、都留キャンパス調査）で検出した遺物包含層（発掘3層）や遺構確認面（発掘4層～発掘6層）などの層順が確認されたことから、新設校舍建設に伴い新たに掘削行為を行う地点について再度試掘調査を行うこととなっていたため、トレーニングセンター建設予定地エリアと合わせて今回の試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約2.5～35m、幅約1.4m、深さ約1.5～3.0m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を13箇所設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

① 本体校舍建設予定地エリア

既存校舍の間に現時点で調査が可能な範囲においてトレンチ（T1～T11）を設定した。土層の堆積状況は、1～3・5～11号トレンチと4号トレンチで異なる状況が確認された。1～3・5～11号トレンチでは、地表から約90cmの深さまで旧学校建物の基礎や埋土層（a～m層）が堆積し、その下層には旧水田層：第1-1層～第1-2層（近世以降）、地表から深さ約110cmで奈良・平安時代の遺物包含層：第3層（発掘3層）、さらに奈良・平安時代以前の遺構確認面（第4-1層～第6層：発掘4層～発掘6層）などが確認され、土坑7基、溝状遺構1条、5号トレンチの遺物包含層（第3層：発掘3層）、9号トレンチの遺構確認面（第4-2層）からそれぞれ奈良・平安時代（8・9世紀）の土器片を僅かであるが確認している。なお、5号トレンチでは旧水田層が見られず、地表から深さ約110cmまで埋土層が及んでいる。4号トレンチでは、地表から約60cmの深さまで旧学校建物の基礎や埋土層（b層・d層）が堆積し、その下層に溶岩ブロック（第9層）および溶岩の岩盤（第10層：約8,500年前の猿橋溶岩）が確認されており、遺構及び遺物は確認されていない状況である。

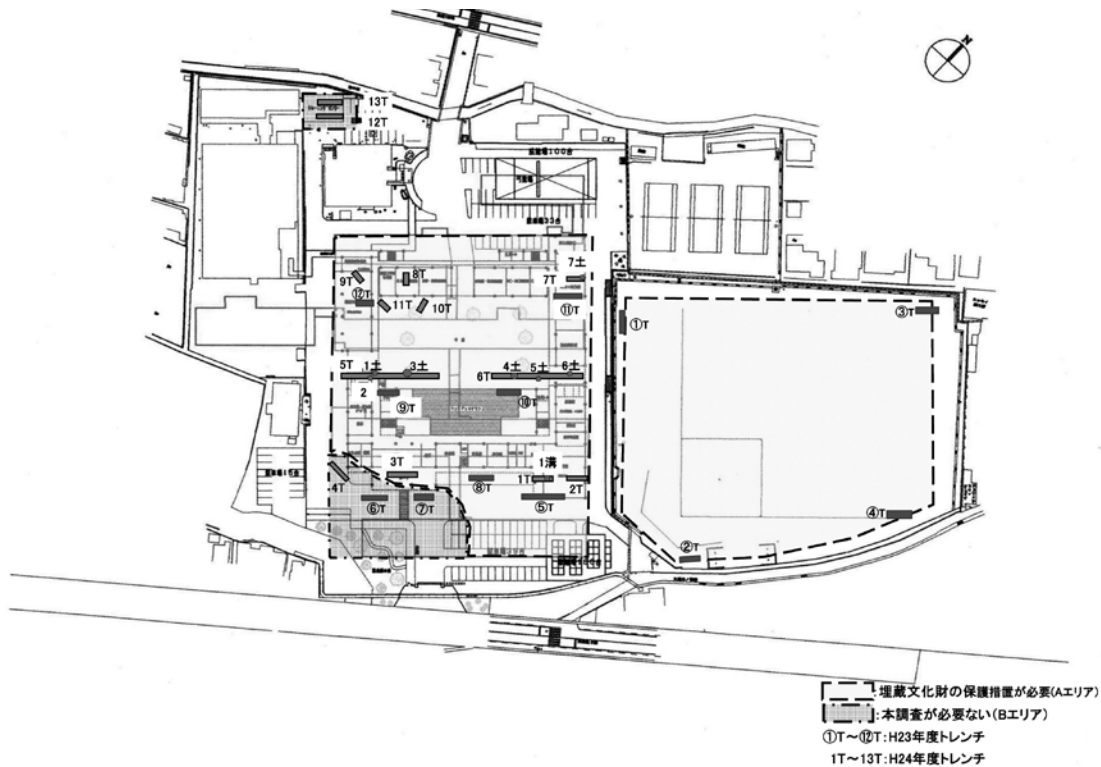
② トレーニングセンター建設予定地エリア

現在使われている駐車場での調査となるため、調査後の使用になるべく影響を及ぼさないよう2箇所にトレンチ（12T～13T）を設定した。各トレンチは、ほぼ同様の土層堆積状況を示しており、表土層（e層：アスファルト層）下では遺物包含層（第3層）や遺構確認面（第4-1層～第6層）などが見られず、地表から深さ約160cmの黒色土層（第7層）まで埋土層や攪乱層が及んでおり、遺構及び遺物は確認されていない状況である。



第1図 東部地域総合制高校建設事業位置図

試掘調査の結果、本体校舎建設予定地エリア1～3・5～11号トレンチでは、遺物包含層（第3層：発掘3層）や遺構確認面（第4-1層～第6層：発掘4層～発掘6層）が確認され、かつ奈良・平安時代の土器片や土坑、溝状遺構が確認されていることから、埋蔵文化財の保護措置が必要と判断される（第2図Aエリア）。なお、4号トレンチでは、旧学校建物の基礎や埋土層の下層に溶岩ブロックおよび溶岩の岩盤（約8,500年前の猿橋溶岩）が確認されていることから、埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと考えられ、本調査の必要はないものと判断される（第2図エリアB）。トレーニングセンター建設予定地エリアの12・13号トレンチでは、遺物包含層（第3層）や遺構確認面（第4-1層～第6層）などが埋土層や攪乱層により削平され、遺構及び遺物は確認されていないため、本調査の必要はないものと判断される（第2図エリアB）。



第2図 試掘トレンチ配置図



2土層堆積状況



4土層堆積状況



5土坑検出状況



6土坑検出状況



7土坑検出状況



13土層堆積状況

19 県立わかば支援学校建設事業 試掘 《後田堰》

所在地	南アルプス市有野3346-3地内	調査期間	平成24年2月20日～24日
担当者	保坂和博	調査面積	370㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立わかば支援学校改築による現グラウンド内での校舎（小学校棟及び中学校棟等）建設を行う1期工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である枅形堤防跡に隣接し、また後田堰（徳島堰から国史跡六科将棋頭内への導水施設）推定地の範囲にあたることから、平成23年12月27日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

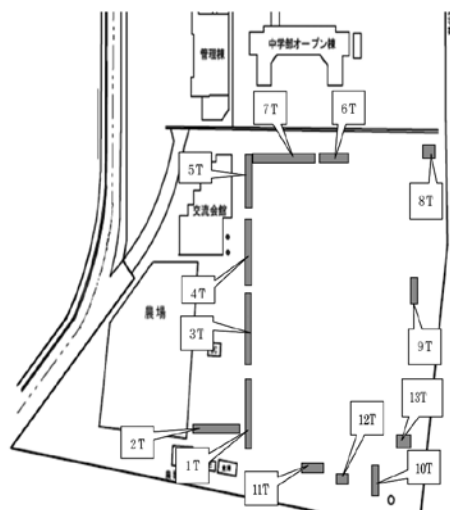
今回の試掘調査では、現グラウンド内に長さ約3.0～23.0m、幅約1.6～2.5m、深さ約0.5～3.0mのトレンチ（試掘溝）を13箇所（1T～13T）設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、グラウンドの南東コーナー側に設定した10号トレンチと12号トレンチから御勅使川により形成された自然堆積層（河川堆積層：砂礫層）が現地表下0.5～0.6mで確認されているが、この他のトレンチでは、2・5・9号トレンチの様相から現地表下3mまで埋土層が堆積する状況が把握されている。特に埋土層の下部（現地表下約1.5～3m）には廃材が多量に確認されている。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点においては工事に着手しても差し支えないと認められる。なお、撤去工事及び2期工事予定地においても後田堰推定地の範囲にあたることから、引き続き埋蔵文化財の保護措置が必要である。



第1図 県立わかば支援学校改築事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



7T完掘状況



9T土層堆積状況



10T完掘状況

20 県立わかば支援学校建設事業 試掘 《後田堰》

所在地	南アルプス市有野3346-3地内	調査期間	平成24年8月20日～27日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	243㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立わかば支援学校改築による撤去工事及び2期工事の予定地（新校舎及びグラウンド建設地点）における試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である枅形堤防跡に隣接し、また後田堰（徳島堰から国史跡六科将棋頭内への導水施設）推定地の範囲にあたることから平成24年7月12日に行った学校施設課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき昨年度の試掘調査に引き続き試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、現況で調査の可能な範囲内に長さ約3～48m、幅約0.5～1.5m、深さ約0.5～2.5mのトレンチ（試掘溝）を14箇所（1T～14T）設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

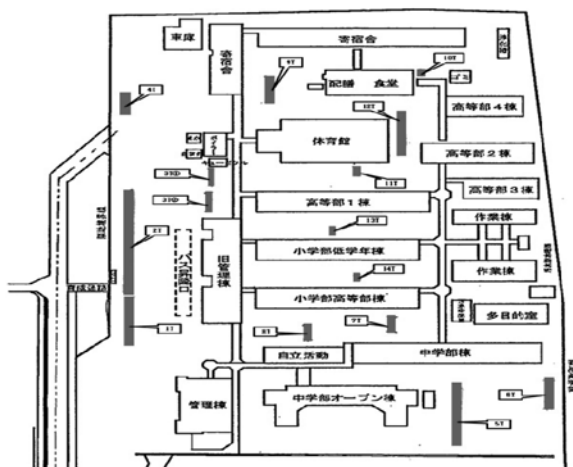
1・2・4号トレンチでは、表土層（第1層）の下に砂礫層を主体とする整地層（第2層～第5層）の堆積が地表下2.5m前後まで確認された。3・9号トレンチでは、表土層（第1層）の下に現地表下約30～50cmまで整地層（第2層）が堆積し、さらに現地表下約1.5mまで砂質土と砂礫の互層状をなす河川堆積層（第3層～第6層）が確認された。5～8・10～14号トレンチでは、表土層（第1層）の下に砂礫層を主体とする河川堆積層（第2層～第4層）が現地表下約1.2mまで確認された。このような各トレンチの土層の堆積状況からは、御勅使川右岸の氾濫源を切り土により造成し、現在の校舎を建設した状況が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認することはできなかった。また後田堰については、造成工事による土地の改変状況から今回の試掘対象地内では、既に消滅しているものと考えられる。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 中部横断自動車道建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



3T土層堆積状況



5T土層堆積状況



12T土層堆積状況

21 県立かえで支援学校建設事業 試掘（笛吹市石和町中川地内）

所在地	笛吹市石和町中川1400地内	調査期間	平成24年9月6日
担当者	保坂和博	調査面積	34㎡

調査経緯及び事業内容と結果

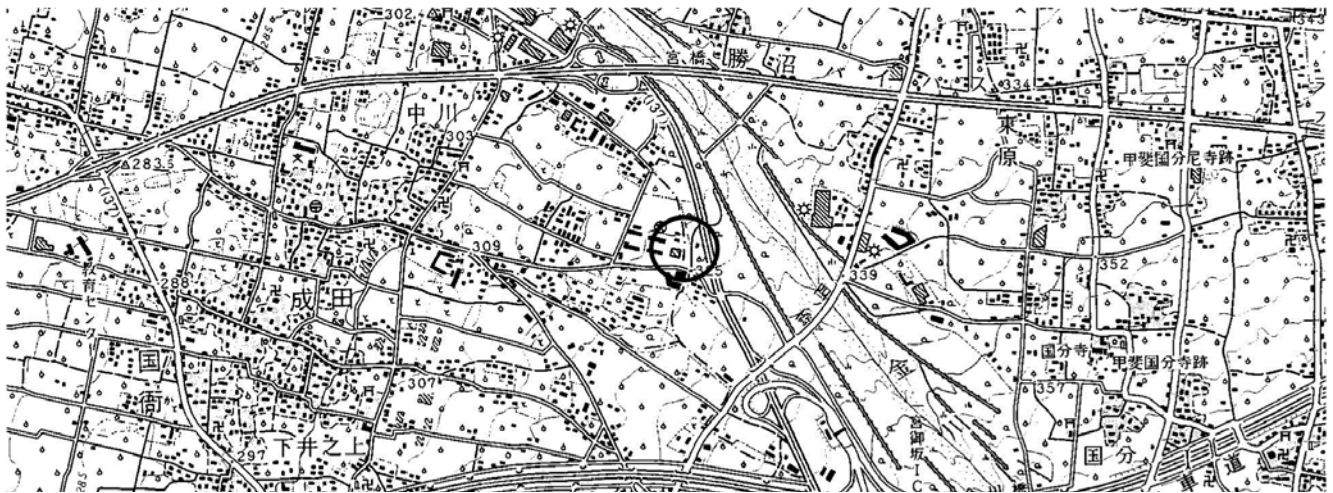
本事業は、かえで支援学校分教室改修事業に伴う高等部専門学科寄宿舎を旧弓道場跡地に建設する事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の隣接地に当たることから、学校施設課、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、平成24年5月24日に行った現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約5.0～8.0m、幅約1.0m、深さ約1.0～1.3mのトレンチ（試掘溝）を5箇所（1T～5T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

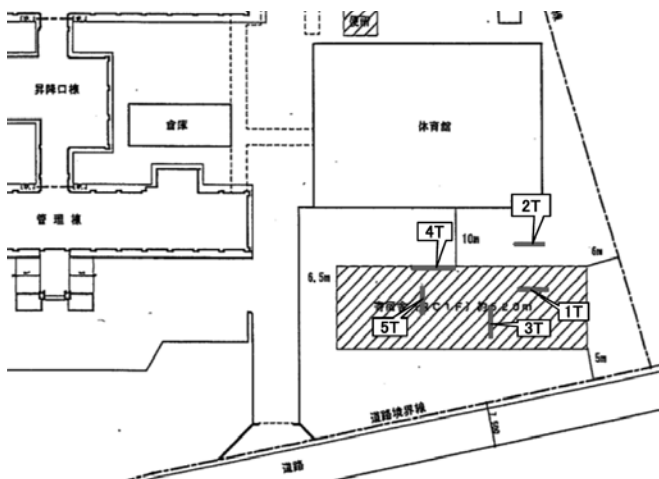
土層の堆積状況は、基本的に同様であり各地点ともに金川による自然堆積層（河川堆積層）が確認されている。1～4号トレンチでは、地表下約0.5mで砂礫層（第7層）が確認され、5号トレンチでは、同層を地表下約1.1mで確認しており、金川から離れた5号トレンチで砂礫層（第7層）の上層において比較的安定した土壌（第4層～第6層：シルト層主体）堆積が確認されている。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されていないが、5号トレンチ第5層から平安時代の須恵器片が出土している。土層堆積及び遺物出土の状況から、第5層は流れ込みの遺物と判断される。

以上のことから、今回の試掘調査地点においては、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 県立かえで支援学校建設事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



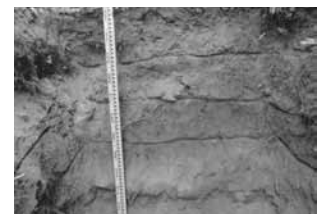
2T完掘状況



3T土層堆積状況



4T土層堆積状況



5T土層堆積状況

22 県立峡南高等技術専門校本館改築等事業 試掘 《堤防遺跡推定地》

所在地	南巨摩郡富士川町青柳町3492	調査期間	平成24年12月3日～5日
担当者	依田幸浩・加々美鮎実	調査面積	200㎡

調査経緯及び事業内容と結果

調査地点は、富士川の支流である戸川の左岸上にあたり、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第152集『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』において報告されている明治21年測量地図に記載された堤防遺跡推定地の範囲内に位置している。このため、平成24年10月25日・26日には、新本館建築予定地の裏側（北東側）にあった寄宿舎の解体工事（基礎抜き取り作業）の際に立会調査を行ったが、遺構及び遺物は確認されなかった。

今回の試掘調査では、新本館建築予定地と寄宿舎のあった実習車両置場となる部分に試掘トレンチを6本設定し、平面及び断面の観察を行った。なお、どのトレンチも砂礫が厚く堆積しており、崩落の恐れがあったため、トレンチ内での作業は行わず、地上から観察及び測量作業を行った。

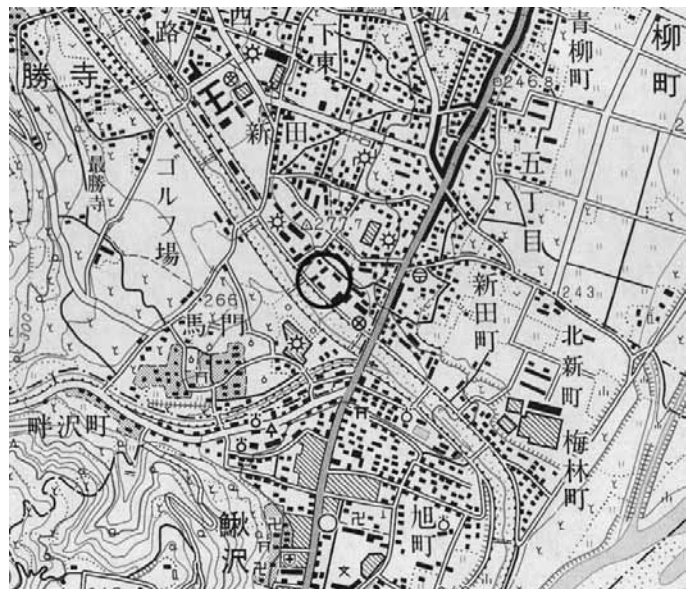
1号トレンチは新本館の部分、2・3号トレンチは新本館と実習車両置場の部分に設定した。新本館の部分は、1～3号トレンチでほぼ同様の状況であり、地表下0.7～1mほどまで埋め土及び峡南高等技術専門校旧施設のコンクリート構造物や攪乱が見られ、その下層は戸川によって運ばれた砂礫の水平堆積が確認された。

2・3号トレンチの実習車両置場の部分では、峡南高等技術専門校北東側の敷地の縁から約5～7m離れた地点で、30～50cmほどの礫を斜めに積んだ石積みとその最下部から南西方向（戸川方向）に20cm前後の礫が4mほど水平に並ぶ石列を検出した。石積みは、幅が約1～2m、深さが地表下約1.3～2.3mの範囲で確認したが、上部は解体された寄宿舎の基礎によって失われているものと考えられる。また、石列は地表下約2mの地点で検出された。なお、3号トレンチでは、石積みの延長線上にあたる地表下約2.8mの地点で40～50cmほどの礫を検出していることから、水平に並ぶ石列のさらに下方まで石積みが伸びている可能性も考えられる。石積みを検出した周辺の土壌堆積状況は、地表下1mから2mほどまで寄宿舎の基礎による攪乱が見られ、その下層は、石積みや水平に並ぶ礫の地点まで葉裏状の砂礫が堆積していた。石積みと礫の下には人為的に盛られたと考えられる20cm以下の礫を大量に含むにぶい黄褐色粘土が地表下約3mの地点まで見られ、さらに下層には地山と思われるにぶい黄褐色粘土が堆積していた。

4～6号トレンチは、2・3号トレンチで検出した石積みと礫の北西方向への分布範囲を確認するため1号トレンチの北東側に設定した。4号トレンチでは、地表下約2mまで基礎の攪乱が見られ、石積みや礫は確認できなかったが、5・6号トレンチでは、2・3号トレンチからの延長線上に石積みや礫を検出した。

2・3・5・6号トレンチで検出した石積みは、検出された位置や砂礫の堆積状況から明治21年測量地図に記載された堤防の川表側法面の基部付近と考えられる。また、水平に並んだ石列は、各トレンチで石積みとともに検出されていることから、法面の前に広範囲に葺石された平坦面が作られていたことが想像される。堤防に付随した水勢を弱める、または堤防を守るための施設と考えられるが、トレンチ断面の観察だけでは詳細な形状や性格を把握することはできなかった。

遺物は、石積み付近の砂礫層内に昭和期と思われる磁器片が少量見られた程度で、堤防が築かれた時期を特定



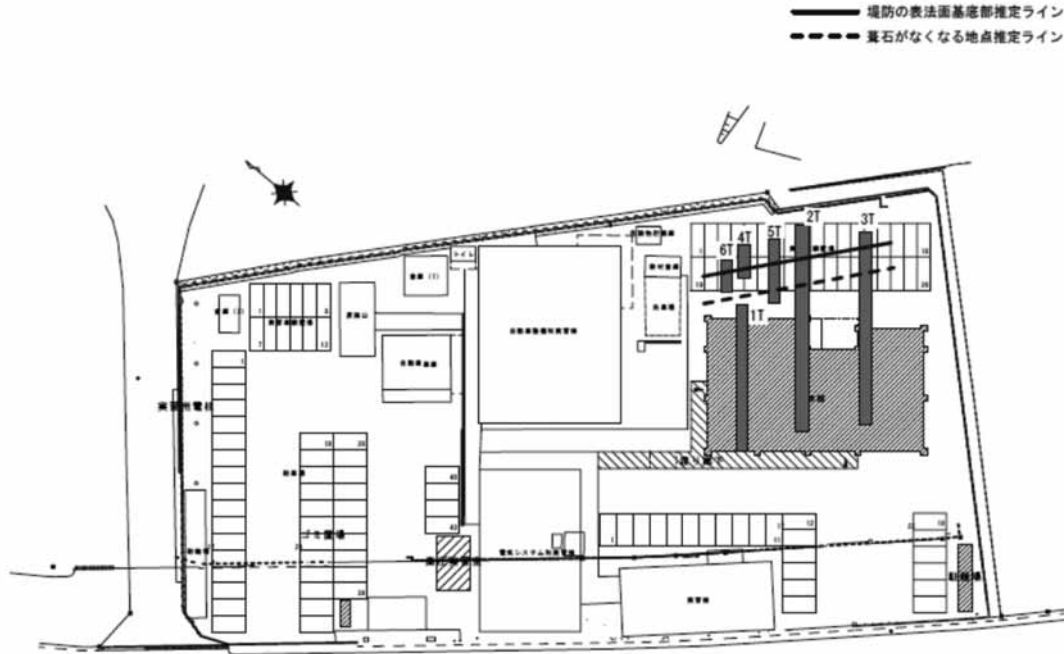
第1図 試掘調査位置図

するような遺物は出土しなかった。また、蛇籠や杭などの痕跡も確認できなかった。

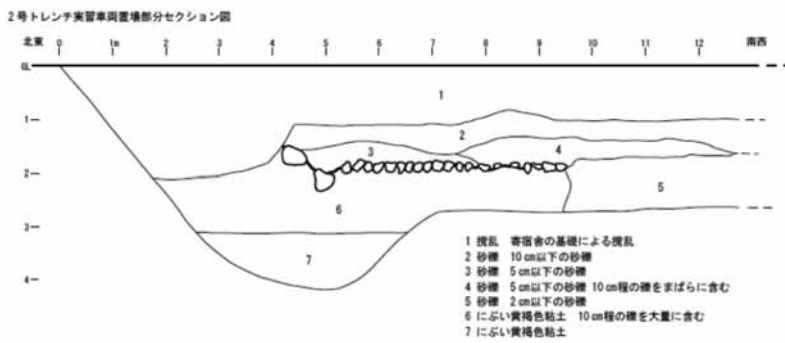
試掘調査の結果、新本館建築予定地から遺構・遺物は全く検出されなかったため、工事に着手しても差し支えないと判断した。

ただし、実習車両置場となる部分では、地表下約1.3～3mの地点に堤防遺跡が存在することが判明したため、保護層の確保等、埋蔵文化財の保護措置が必要となる。

峡南高等技術専門学校本館改築等事業に伴う試掘調査 試掘トレンチ配置図 S=1:500 (A3)



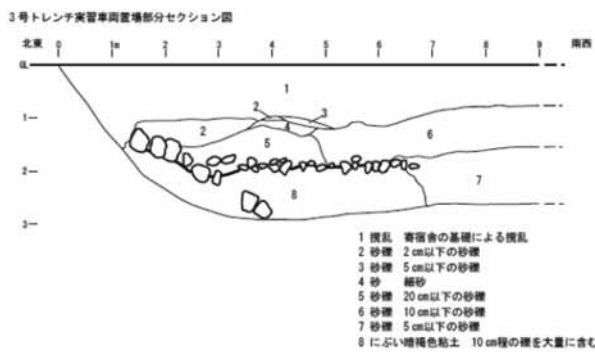
第2図 試掘トレンチ配置図



第3図 2号トレンチ断面図



2号トレンチ石積み検出状況



第4図 3号トレンチ断面図



3号トレンチ石積み検出状況

23 南川河川改修事業 試掘 《桜坪遺跡・中尾条理遺跡》

所在地	笛吹市一宮町一ノ宮字日出田766外地内	調査期間	平成24年11月22日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	5㎡

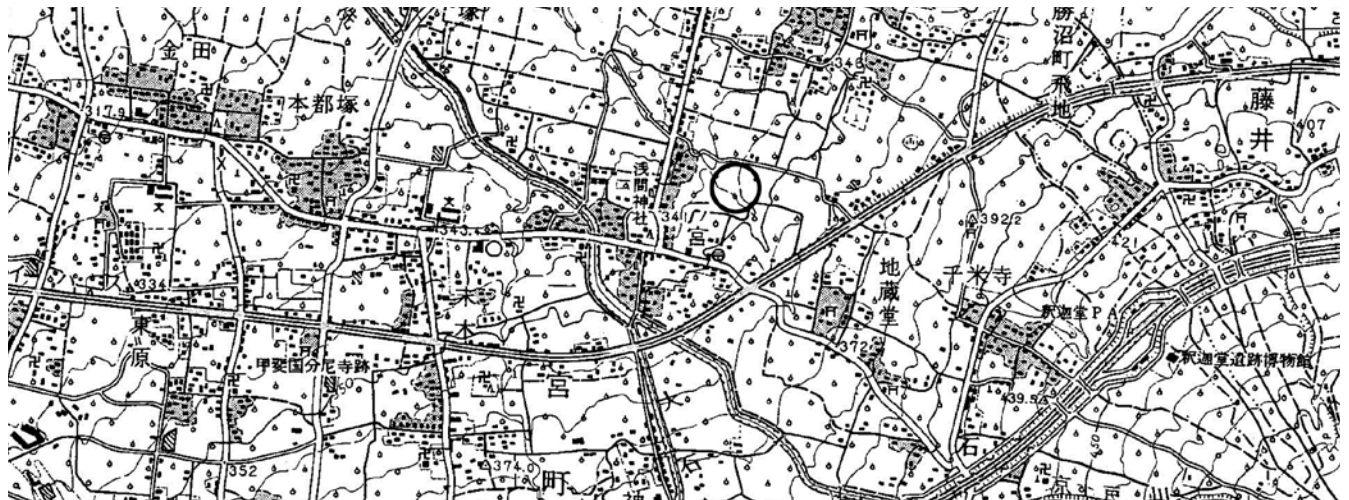
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、南川河川改修事業に伴う護岸工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である桜坪遺跡及び中尾条理遺跡の範囲に当たることから、平成24年10月26日に行った峡東建設事務所河川砂防課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

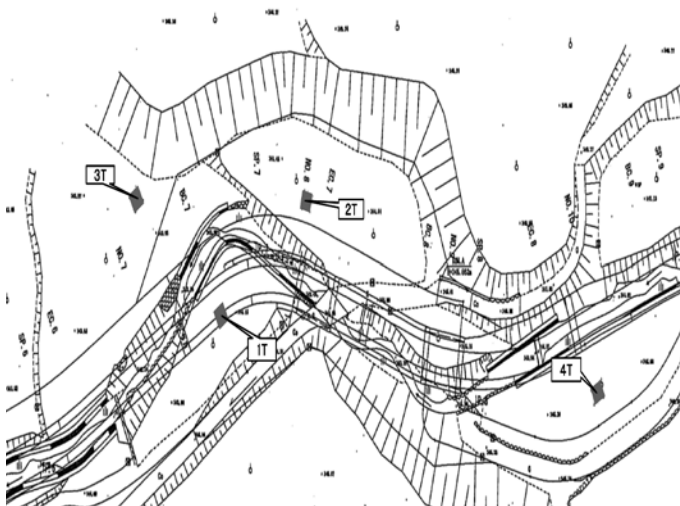
今回の試掘調査では、長さ約1.0m四方、深さ約50～75cmのトレンチ（試掘溝）を4箇所（1T～4T）設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、基本的に同様であり各地点ともに地表下10～30cm前後まで表土層（耕作土層：第1層）が堆積し、さらに現地地表下から掘削最深度75cm前後まで掘り下げたところ、南川の河川堆積により形成された砂礫層、シルト質土層（第2層～第4層）が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立試掘調査地点では、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。



第1図 南川河川改修事業位置図



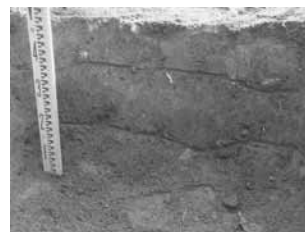
第2図 試掘トレンチ配置図



1T土層堆積状況



2T土層堆積状況



3T土層堆積状況



4T土層堆積状況

24 国道411号古府中環状浅原線改良事業 立会 《甲府城下町遺跡》

所在地	甲府市中央二丁目14外地内	調査期間	平成24年5月30日～10月6日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	425㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県道古府中環状浅原橋線及び城東通り（国道411号線）の拡幅工事に伴う調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たることから、これまで発掘調査等による対応を行ってきた経緯がある。今年度も新たに買収された事業エリアに関して平成24年5月2日及び5月15日に行われた中北建設事務所都市整備課、学術文化財課、埋蔵文化財センター、甲府市教育委員会による事前協議に基づき、国道に関しては埋蔵文化財センター、県・市道部分は甲府市教育委員会が試掘調査を分担し、極小範囲で行われる工事に関しては両者で立会調査を行うこととした。

今回の立会調査では、工事工程に合わせて平成24年5月から10月にかけて計17回実施した（第2図 立会調査位置図）。各地点の土層の堆積状況は、後世の攪乱等による差異は見られるが基本的に平成23年10月に行われた本調査時の層序に対応しており、第1層（表土：碎石・アスファルトなど）、第2層（焼土層：近代～江戸期）、第3層（造成層：江戸期）、第4層（焼土層：江戸期）、第5層（造成層：江戸期）、第6層（文化層：江戸期）、第7層（文化層：造成層）、第8層（文化層：中世から古代）、第9層（地山層：黒色粘質土）、第10層（地山層：黒褐色粘質土）、第11層（地山層：暗オリーブ褐色粘質土）が確認されている（第1表 立会調査一覧）。

立会調査の結果、A地点では、甲府城の土塁跡及び堀跡が想定されたがその痕跡は確認出来ず、④地点で甲府水に伴う桶が検出されている。B地点では、③地点で平成23年度の調査で発見された同様の金付着のかわらけが



第1図 国道411号古府中環状浅原橋線改良事業位置図



②地点 土層堆積状況（南から）



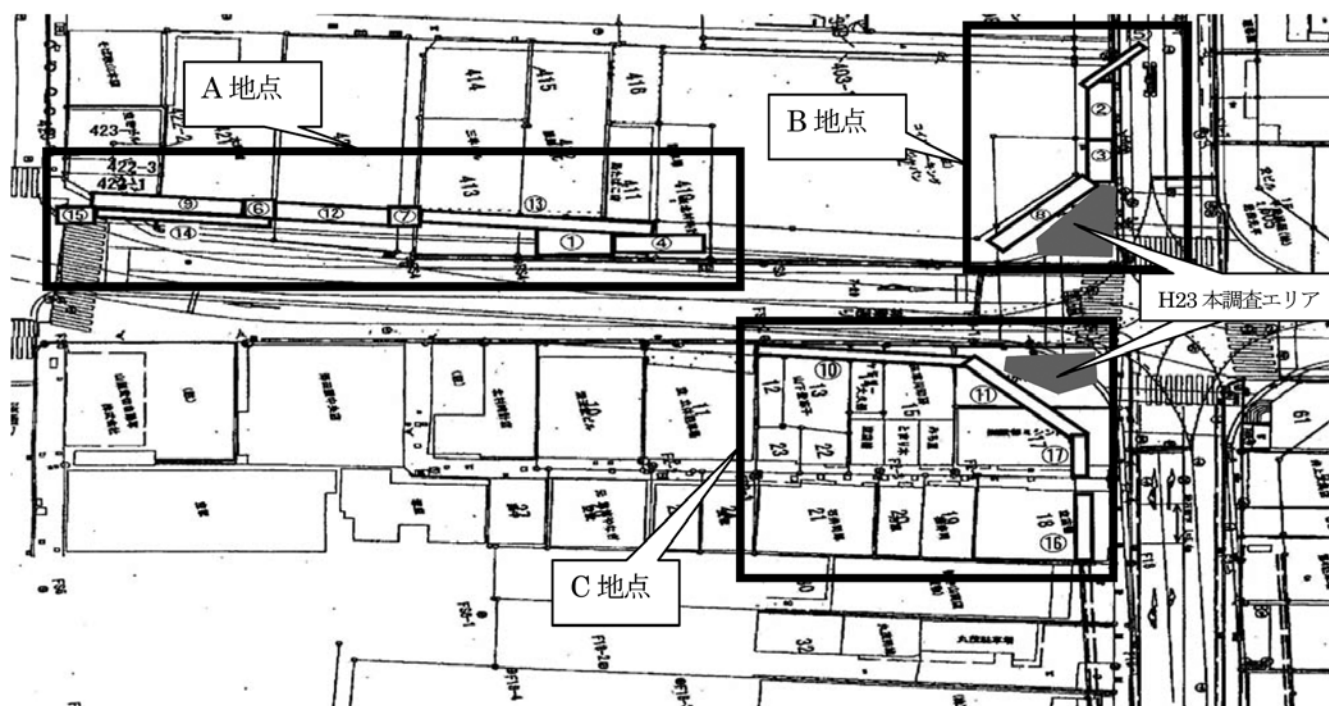
④地点 甲府上水（桶）検出状況



⑯地点 石列検出状況

第4層から出土している。C地点では、⑩地点の第7層から江戸期の石列が確認されている。

以上のことから今後、本地点で工事を行う場合には、遺跡に影響を及ぼさない保護措置を行うことが必要である旨を報告した。



第2図 立会調査位置図

	調査地点	調査日	調査範囲	深度	H23発掘対応層順	出土遺物・検出遺構
①	中央2丁目411.412	5月30日	3.1×8.3m	2.8m	2～10層	3層：明治期磁器・杭
②	中央2丁目403-2	6月4日	3.0×7.2m	2.8m	5～10層	6層：中世かわらけ 8層：古墳時代土師器 明治期杭
③	中央2丁目403-2	6月13日	2.4×5.0m	2.2m	1～10層	6層：金粒付着かわらけ
④	中央2丁目410.411	6月29日	2.5×5.0m	2.0m	2～10層	6層下層：甲府上水（桶）
⑤	中央2丁目403-2地先	7月10日	1.2×8.0m	2.1m	8～11層	
⑥	中央2丁目421	8月1～2日	2.0×2.0m	2.0m	10～11層	石積（道路側溝の可能性あり）、瓦・瓦質土器
⑦	中央2丁目420	8月3日	1.5×1.5m	1.6m	10～11層	
⑧	中央2丁目403-2	8月29日	1.3×12.5m	0.9m	5～8層	6層：江戸期磁器・陶器、炭化物
⑨	中央2丁目421.422-1	9月1日	1.9×15.2m	1.2m	8層	8層：石列・桐木
⑩	中央4丁目12～15	9月12日	1.3×19.0m	0.9m	2～8層	5・6層：かわらけ
⑪	中央4丁目16～17	9月14日	1.3×8.4m	1.3m	2～9層	
⑫	中央2丁目420	9月24日	2.1×11.3m	1.3m	2、4～6層	
⑬	中央2丁目413	9月27日	0.9×18.0m	0.9m	10～11層	
⑭	中央2丁目421.422-1	9月29日	1.3×14.0m	0.6m	11層	
⑮	中央2丁目422-1地先	10月1日	1.6×2.8m	1.2m	6層	
⑯	中央4丁目18	10月5日	1.3×10.0m	1.3m	2～8層	4層：銭貨、8層：古墳時代土師器
⑰	中央4丁目17	10月6日	1.3×3.1m	1.3m	2～8層	7層：石列

第1表 立会調査一覧

25 国道358号共同電線溝設置事業 立会（甲府市上今井町地先）

所在地	甲府市上今井町1025地先外	調査期間	平成24年10月30日、11月29日
担当者	保坂和博	調査面積	34㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、国道358号共同電線溝設置事業に伴う管路工等を設置する事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが国道の両車線においてそれぞれ施工長約187.0m（甲府駅方面車線）と約199.0m（下曾根町方面車線）、幅約1.5～1.8m、深さ約2.3mの範囲となることから、平成24年6月22日に行った中北建設事務所道路課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、夜間の立会調査を実施した。

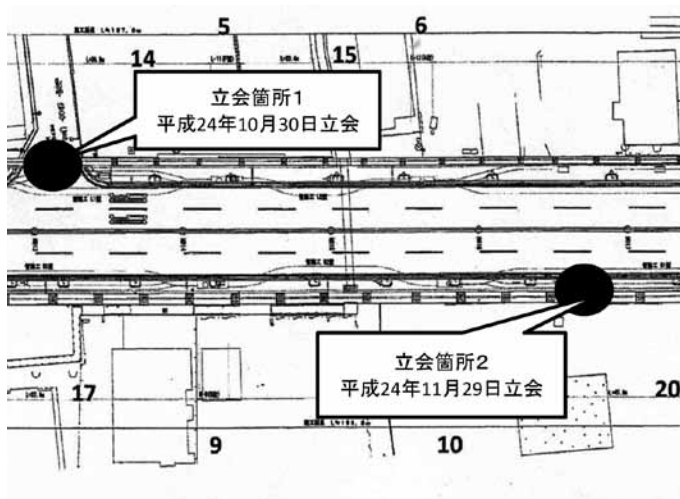
今回の立会調査では、当初両車線2箇所ずつの立会場所を設定したが、同様な土層堆積状況であることが確認されたことから1箇所ずつにおいて重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

土層の堆積状況は、基本的に同様であり、地表（道路面）下130cm前後まで道路造成層（第1層～第4層）となり、その直下から荒川の後背湿地域に形成された粘質土層、シルト質（第5層～第11層）が確認され、さらに10月30日の立会調査1地点（甲府駅方面車線）では、地震の痕跡と考えられる高さ約1mに及ぶ液状化現象（噴砂）が観察された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



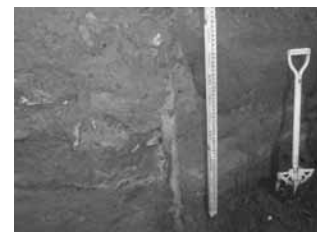
第1図 国道358号共同電線溝設置事業位置図



第2図 立会調査位置図



1地点 土層堆積状況



1地点 噴砂検出状況



2地点 土層堆積状況



2地点 掘削作業状況

26 甲府山梨線整備事業 立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1地先外	調査期間	平成24年7月9日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、甲府山梨線整備事業に伴う照明柱を設置する事業である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の範囲に当たることから、平成24年6月28日に行った中北建設事務所道路課と学術文化財課との事前協議に基づき、甲府市教育委員会、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより立会調査を実施した。

今回の調査では、照明柱の設置に伴う掘削箇所2地点を7月9日の午前（第1地点）と午後（第2地点）のそれぞれに立会を実施した。

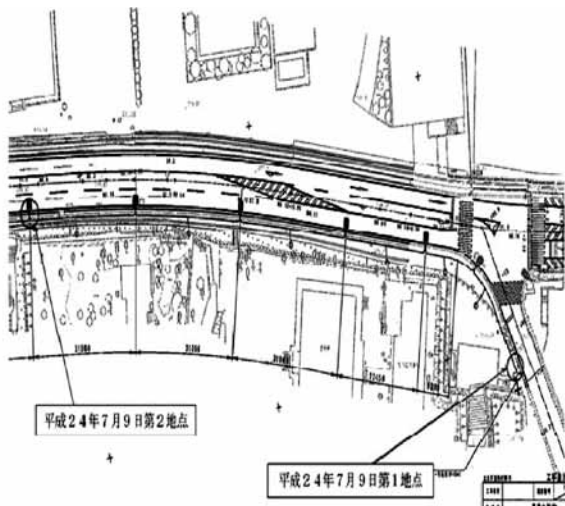
第1地点では、長さ約3.0m、幅約1.2m、最深部1.42mの掘削坑を対象に調査した。土層の堆積状況は、歩道敷設とガス管理設に伴う造成層下に現況地盤面下約62～142cmに一条小山を形成する岩盤が確認された。

第2地点では、長さ約1.7m、幅約1.5m、深さ約1.6mまで掘り下げたところ、地表（歩道面）下1.6m前後まで埋土層が確認された。

立会調査の結果、第1地点では、当初の掘削深度は2.3mであったが、岩盤に掘削が及ばないことを確認した上で、工事を進めても差し支えない旨を指示した。第2地点では、遺構・遺物ともに検出されないため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 甲府山梨線整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



1地点 掘削状況



1地点 岩盤確認状況



2地点 完掘状況1



2地点 完掘状況2

27 林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舎解体事業 立会（南アルプス市有野地内）

所在地	南アルプス市有野2722-26	調査期間	平成24年8月20日
担当者	依田幸浩	調査面積	44.6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第152集『山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書』において報告されている明治21年測量地図に記載された堤防遺跡推定地付近に立地する山梨森林管理事務所白根宿舎解体工事における立会調査である。

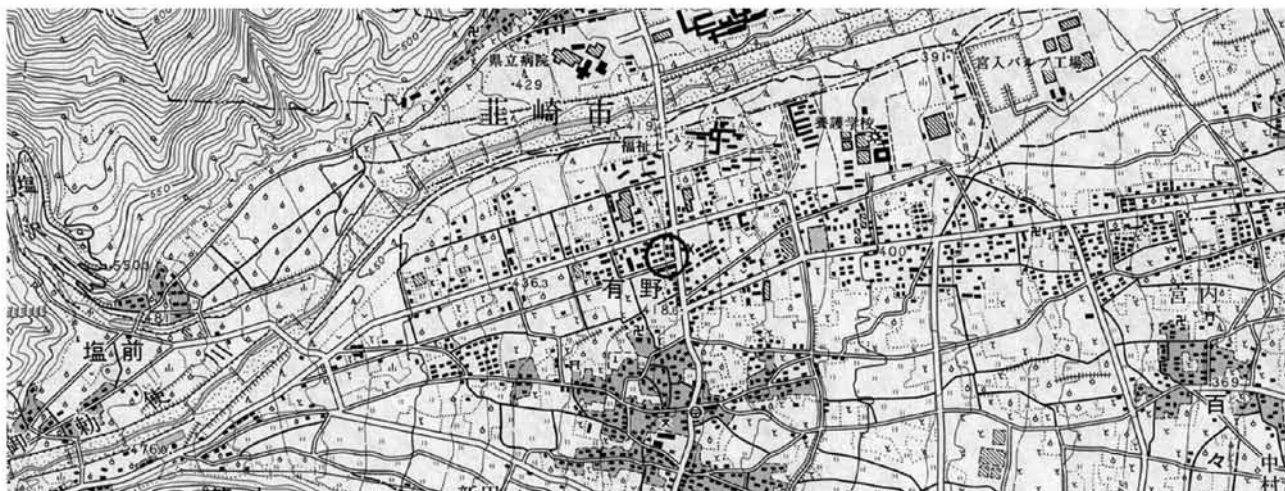
立会調査は、既存建物の基礎撤去作業に合わせて実施した。

既存基礎は50年程前の布基礎で、根入れの深さは20cmほどであった。基礎周辺の土壌は、地表下20cmまで埋め土と思われる碎石の多く混ざった黒色土で、地山を確認することはできなかった。

建物の北側に埋設されていた浄化槽を撤去するために、地表下1mほどまで掘り下げたが、浄化槽が崩壊し内容物が漏れだしてしまったため、それ以上の掘削は中止し、浄化槽の破片を取り上げて作業を終了した。浄化槽が設置されていた地点の土壌堆積状況は、地表下約20cmまで基礎部分と同じ碎石の混ざった黒色土で、下層は地表下約1mまで砂礫が堆積していた。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される。

なお、まだ2棟の宿舎が残っており、これらも解体する予定とのことから、基礎部分に関しては問題ないと思われるものの、浄化槽部分については、それぞれ立会調査を実施すべきと考える。



第1図 林野庁森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舎解体事業位置図



基礎撤去前の状況



基礎撤去状況

28 南アルプス警察署三田駐在所改築事業 立会 《加賀美条里遺構》

所在地	南アルプス市寺部144-1	調査期間	平成24年 7月20日
担当者	依田幸浩	調査面積	3.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である加賀美条里遺構の範囲内にあり、伊勢前遺跡（弥生・古墳・平安時代：散布地）に隣接する南アルプス警察署三田駐在所改築工事における立会調査である。

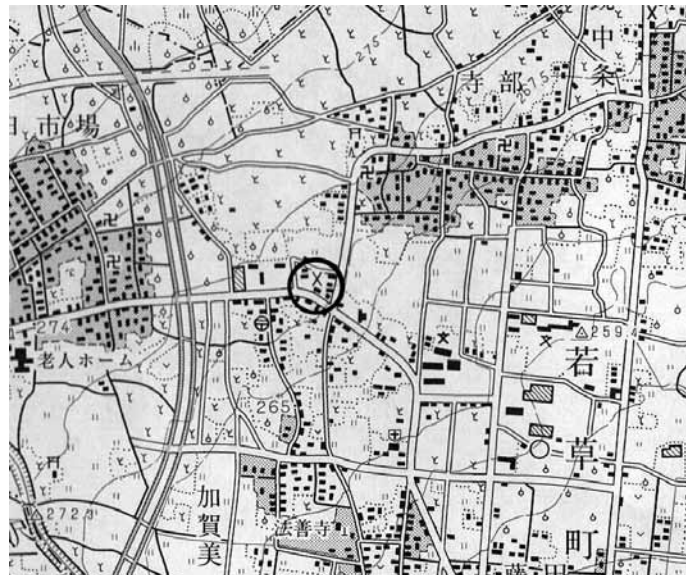
調査は、既存建物の基礎撤去作業に合わせて実施し、新築建物の基礎に設定されている部分を除いて、既存基礎の内側にトレンチを設定し、埋蔵文化財の確認を行った。トレンチは2カ所設定し、重機で掘削した後、人力で精査しながら断面及び底面の観察を行った。

第1号トレンチは、既存基礎の設置深度も併せて確認するため、既存基礎脇の地点に設定した。トレンチの深さは、新築基礎が築かれる深さ70cmと埋蔵文化財が確認された場合の保護層30cmを足した約100cmとした。土壌の堆積状況は、埋め土と思われる5cm以下の礫を多く含んだ黄褐色粘土層、黄褐色粘土層、砂礫層であった。遺構・遺物は確認されなかった。

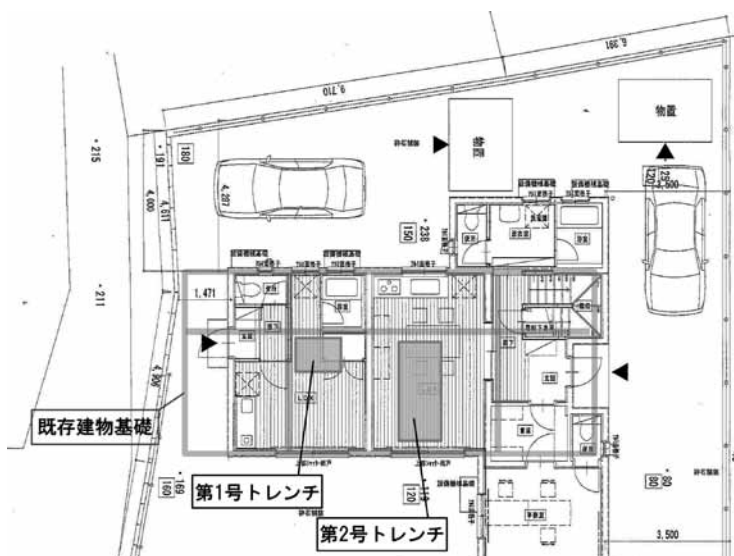
第2号トレンチは、新築基礎間の中間部分に設定し、第1号トレンチと同様に地表面から約100cmまで掘削した。土壌の堆積状況は、埋め土と思われる5cm以下の礫を多く含んだ黄褐色粘土層、黄褐色粘土層、北から南へ傾斜する砂礫層と葉裏状の砂礫を含む黄褐色粘土層であった。遺構・遺物は確認されなかった。

第1・2号トレンチともに、トレンチのさらに下方に続くと考えられる砂礫層を確認した。今回の調査地点は、御勅使川扇状地の扇端部に立地していることから、河川の氾濫による砂礫が広く堆積している状況が想定される。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。



第1図 事業位置図



第2図 トレンチ配置図



1号トレンチ断面



2号トレンチ断面

29 県営寿団地下水道接続事業 立会（富士吉田市上暮地地内）

所在地	富士吉田市上暮地一丁目 8	調査期間	平成24年 9月12日～14日、18日、19日
担当者	依田幸浩	調査面積	14㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、県営住宅寿団地の下水道接続工事における立会調査である。周辺に周知の遺跡はなく、溶岩流の流下範囲内であることが想定されたが、事業予定地の面積が広がったため、富士吉田市教委と協議した中で、試掘・立会が必要との指示になっていた。実際には、掘削する面積が狭かったことから、立会調査を実施することとなった。

立会調査は、下水道接続工事の工程に沿って、5カ所の掘削地点で行った。

A地点では、地表下約70cmまで埋め土が堆積しており、埋め土の下層30cm程の厚さで暗赤色スコリアと溶岩ブロックが堆積し、その下層は溶岩の岩盤であった。

B地点では、地表下約1mまで埋め土が堆積しており、その下層は岩盤であった。

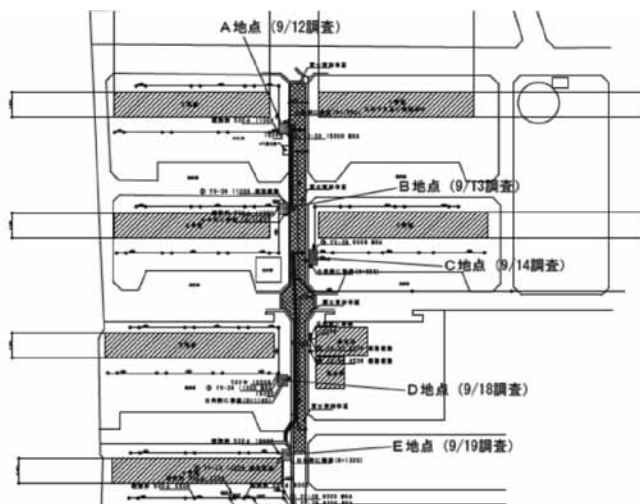
C～E地点は、地表下1～1.1mまで掘削したが、全て埋め土が堆積しており、地山は確認されなかった。

今回立会調査を行った全地点において遺構・遺物は確認されなかった。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される。



第1図 県営寿団地下水道接続事業位置図



第2図 立会地点位置図



B地点断面



E地点断面

30 県営身延第二団地下水道接続事業 立会（南巨摩郡身延町波木井地内）

所在地	南巨摩郡身延町波木井1200-2	調査期間	平成24年9月24日～26日
担当者	依田幸浩	調査面積	35㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、県営住宅身延第二団地の下水道接続工事における立会調査である。周辺に周知の遺跡はないものの、工事地点の西側に日蓮宗波木井山円実寺があり、塔頭などの埋蔵文化財が存在する可能性があるため、立会調査を実施することとなった。

立会調査では、下水道の配管を設置するために身延第二団地2号棟の北側に沿って掘られた幅1m、深さ1.2～1.6mの溝の掘削状況を確認し、掘削終了後に溝の断面および底部の観察を行った。

溝の西側では、地表下約20cmまで碎石が敷かれ、その下層から溝の底部まで4cm以下の礫を含む明褐色粘土が堆積していた。また、西側の最も端の部分では明褐色粘土の下層にオリブ黒色の粘土が堆積している状況が確認され、この周辺からは湧水が見られた。

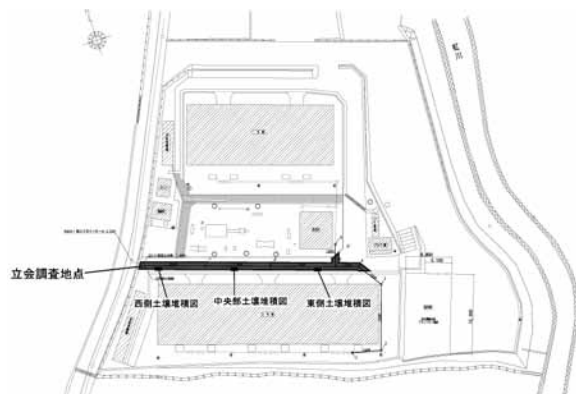
溝の中央部分では、地表下約70cmまで側溝のコンクリート壁・碎石・既設ガス管の埋め土が見られ、その下層は明褐色粘土が堆積していた。

溝の東側では、地表下約70cmまでは中央部と同じ状況で、その下層はオリブ黒色粘土、明褐色粘土の順で堆積していた。オリブ黒色粘土は東側へ進むほど厚く堆積していた。オリブ黒色粘土とその上層の埋め土の間からは、わずかながら湧水が見られた。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。



第1図 県営寿団地下水道接続事業位置図



第2図 立会地点位置図



西側～中央掘削状況



東側掘削状況

31 山梨県防災新館建設事業 立会 《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目8地内	調査期間	平成24年12月10日、17日～18日
担当者	保坂和博	調査面積	11㎡

調査経緯及び事業内容と結果

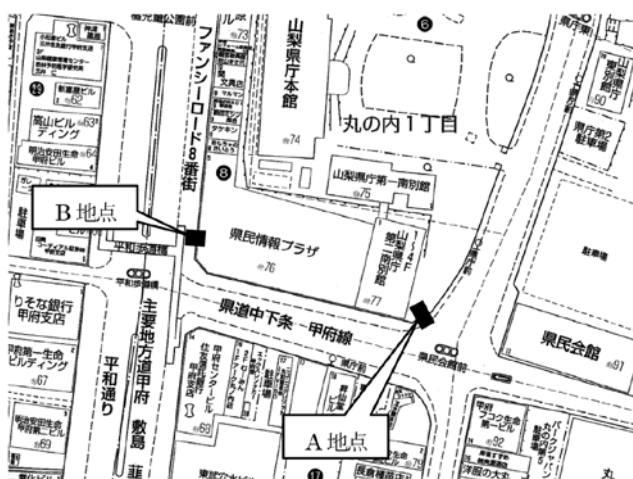
本事業は、山梨県防災新館建設事業に伴い県民会館前交差点付近（A地点）と平和歩道橋交差点付近（B地点）の2箇所にて新設公共雨水枡及びその配管を現歩道下の下水道本管に布設する工事である。この地点は周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城跡の堀の範囲内に想定されることから、学術文化財課と管財課との事前協議に基づき重機及び人力による掘削時に立会調査を実施し、遺構確認と土層観察を行った。A地点では、長さ約3.0m、幅約1.1m、深さ約1.9mの掘削坑を対象に調査した。土層の堆積状況は、現況地盤面下約1.05mまで既設の配管などの敷設に伴う埋土（暗灰黄色粘質土に礫が混入）が確認され、さらに約1.9mまで掘り下げたところ、甲府城の堀の覆土（オリーブ黒色粘質土+暗緑色配色シルト質土に5～10cm大の礫が多量に混入）と考えられる堆積が確認された。B地点では、歩道脇の暗渠を挟んで長さ約2.4m、幅約1.5m、深さ約2.0mの掘削坑を対象に調査した。

土層の堆積状況は、現歩道（アーケード）部分では歩道敷設に伴う造成層（砂層、碎石層）を現況地盤面下約1.0mまで確認し、さらに約2.0mまで掘り下げたところ、堀の覆土と考えられる層中に下水道本管が確認され、江戸期以降の所産と考えられる石臼（上臼）1点が出土した。旧県民情報プラザ建物跡地部分では、現況地盤面下約1.8mまで建物基礎及びその埋土が確認された。

立会調査の結果、今回の調査地点では、甲府城の堀の覆土と考えられる堆積が確認されたため、これ以上の掘削を行わないことを確認した上で、工事を進めても差し支えない旨を指示した。



第1図 山梨県防災新館建設事業位置図



第2図 立会調査位置図



A地点 完掘状況



A地点 土層堆積状況



B地点 土層堆積状況



4T土層堆積状況

32 県立かえで支援学校分教室改修事業 立会 《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川1400	調査期間	平成24年1月16日、18日、24日、25日
担当者	依田幸浩	調査面積	68.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡（縄文・奈良・平安・中世：集落跡）が存在する笛吹市石和町中川地内の県立かえで支援学校分教室改修工事における立会調査である。

平成23年8月29日には、エレベーター棟増築等の工事に伴い試掘調査が行われ、平安時代の文化層が確認されるとともに、同時代の土器片が出土している。

調査は、改修工事が行われた普通教室棟北側の発電機設置地点（A地点）、特別教室棟（旧食品化学科棟）周辺のガス及び制御配管工事地点（B～E地点）、特別教室棟西側の高圧線用アース板埋設地点（F地点）で、重機による掘削部分の断面及び底面の観察を行った。

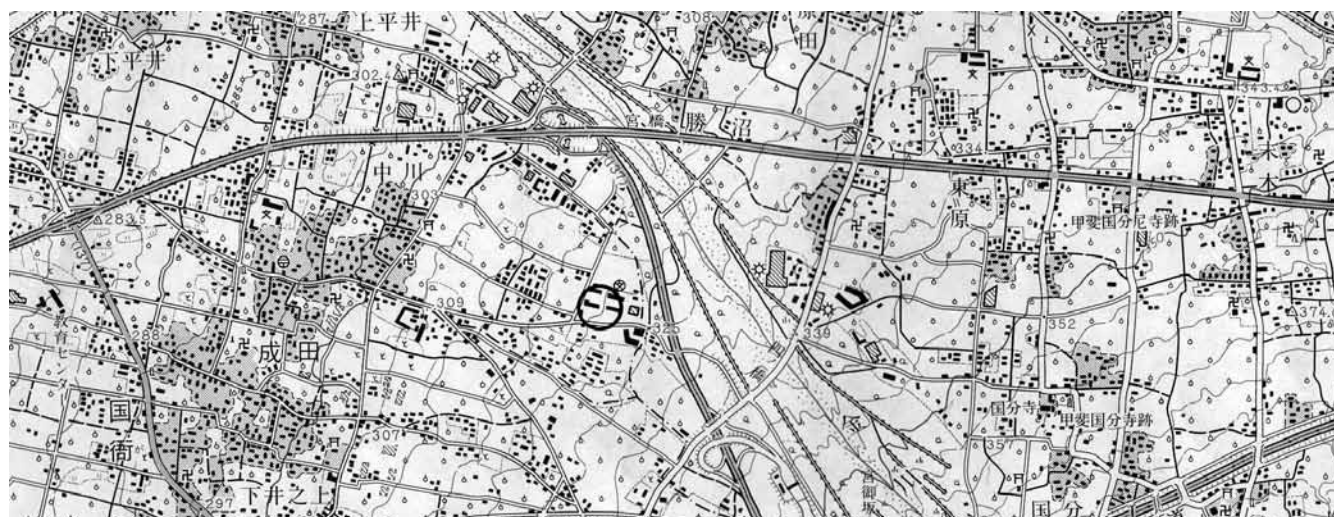
発電機設置地点（A地点）では、地表下約60cmまで掘削し、碎石層や埋土と考えられるビニール片などを含む暗褐色土層を確認した。

特別教室棟周辺の配管工事地点（B～E地点）では、地表下60～80cmまで掘削し、B地点及びE地点の東側で、埋土の下層から灰オリーブシルト・砂層と暗褐色シルト・砂層を確認した。また、C地点及びD地点では、埋土の下層から暗灰黄砂礫層と砂礫を多く含む黒褐色土層を確認した。B～E地点においては、既設埋設物や旧建物の基礎のために掘削された攪乱が所々で確認された。

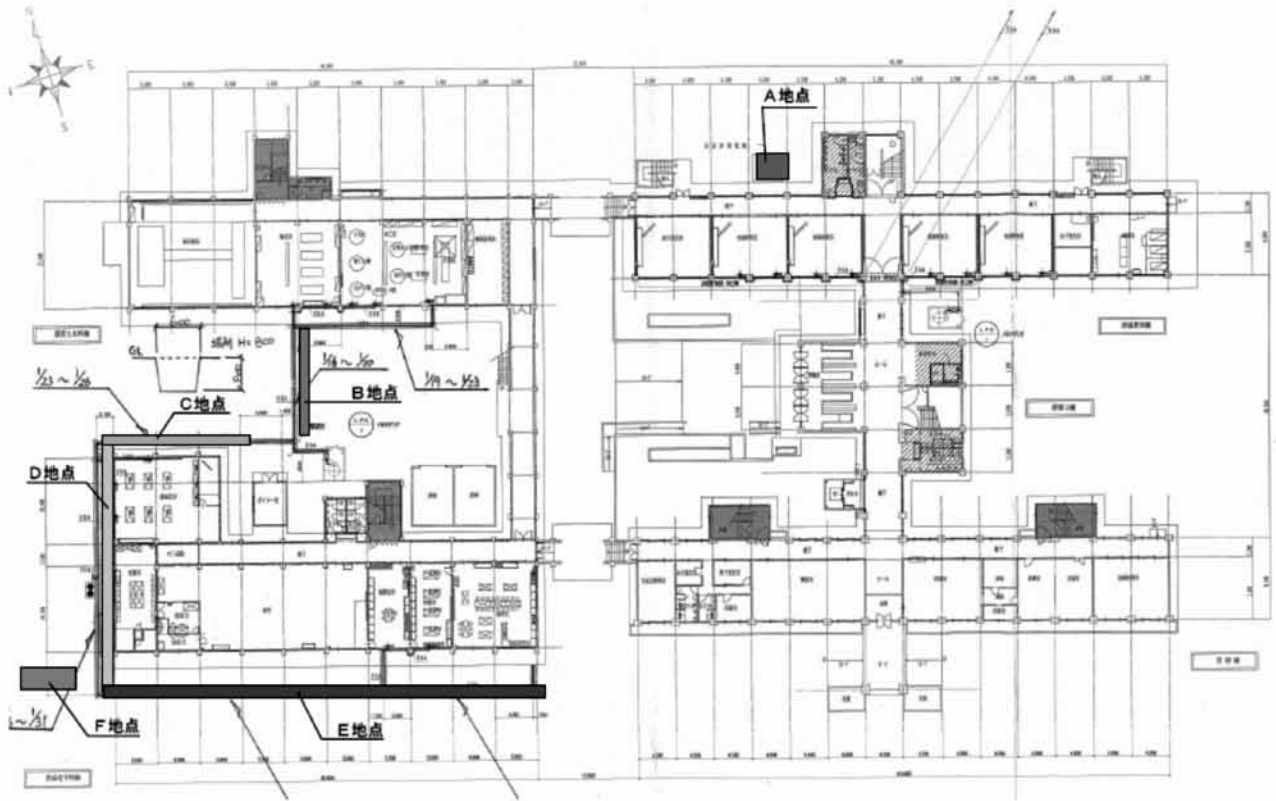
高圧線用アース板埋設地点（F地点）では、地表下約1.7mまで掘削し、地表下1mまでの埋土と下層の暗オリーブ砂を確認した。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断される。

なお、試掘調査で確認された平安時代の文化層は、今回の工事による掘削深度よりもさらに下層に存在することが想定される。



第1図 県立かえで支援学校分教室改修事業位置図



第2図 試掘トレンチ配置図



A地点掘削状況



B地点断面



C地点掘削状況



D地点掘削状況



E地点掘削状況



F地点断面

33 県立かえで支援学校建設事業 立会 《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川1400地内	調査期間	平成24年3月2日
担当者	保坂和博	調査面積	10㎡

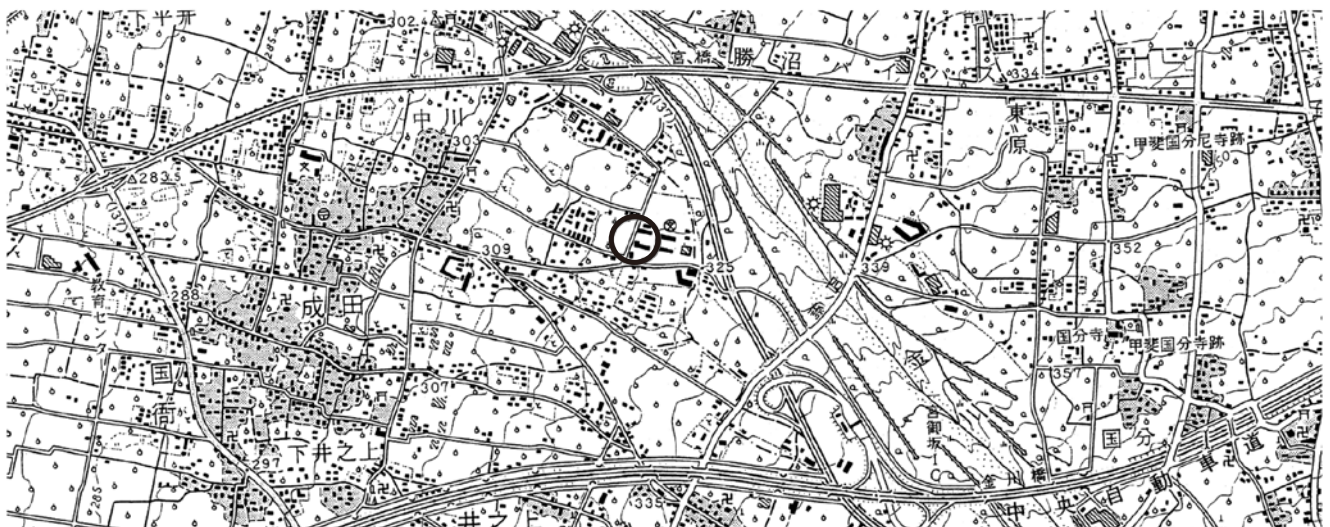
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立かえで支援学校の西側門扉・フェンス及び南側片扉・フェンスを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内に当たることから、県立かえで支援学校と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。

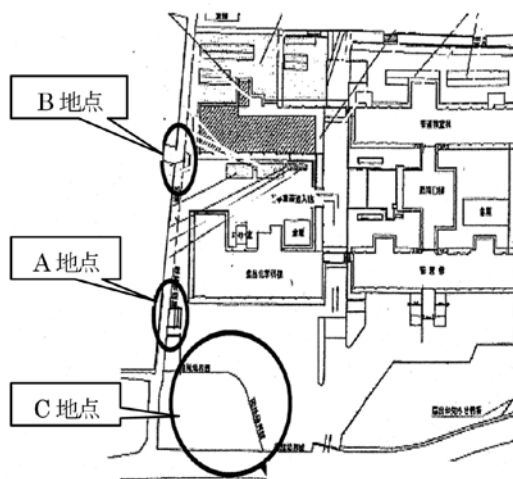
西側門扉・フェンス設置工事では、A地点1箇所、B地点15箇所、南側片扉・フェンス設置工事では、C地点23箇所、基礎の掘削深度が現地表下約0.5mに及ぶため、掘削時に断面と底面の観察を行った。

土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（黒褐色土層）、第2層（黒褐色砂層＋小礫）、第3層（黒褐色砂層）、第4層（暗褐色砂礫層）の層順が確認された。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物は全く確認できず、また第2層が平成23年8月29日試掘調査の第2層、第3層が同4層、第4層が同5層に当たると考えられ、平安時代の文化層（同9層）は、今回の工事による掘削深度よりもさらに下層に存在することが想定されたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 県立かえで支援学校整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



C地点 掘削状況



C地点 土層堆積状況



A地点 掘削状況



B地点 掘削状況

34 県立園芸高等学校施設整備事業 立会 《狐原遺跡》

所在地	笛吹市石和町中川1400地内	調査期間	平成24年3月2日
担当者	保坂和博	調査面積	2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

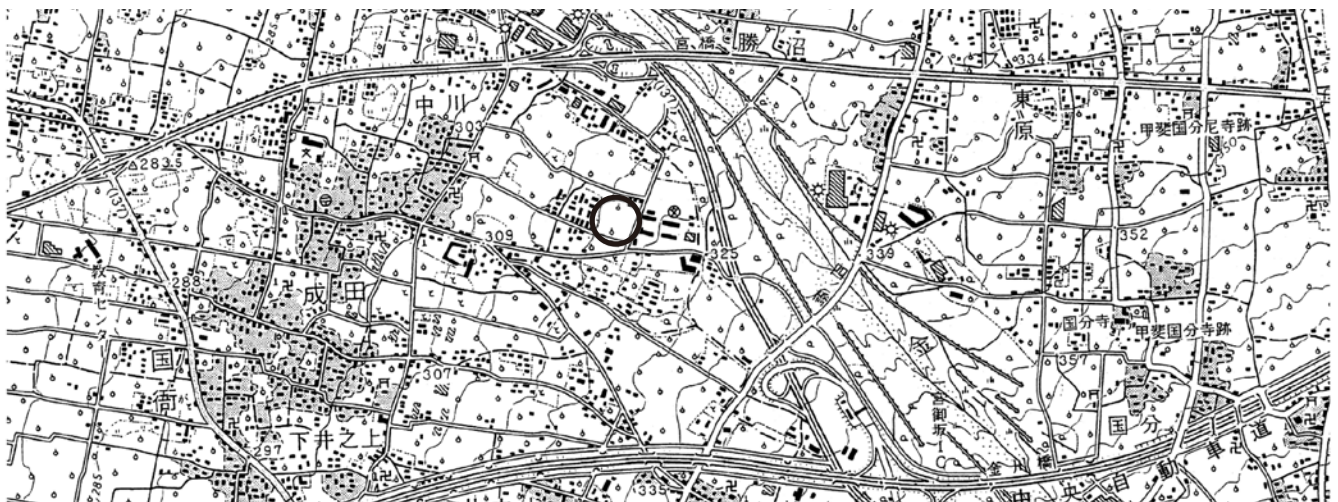
本事業は、県立山梨園芸高等学校の水道メーターを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内に当たることから、県立山梨園芸高等学校と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。

水道メーターを設置する2か所において、人力による掘削時にそれぞれ遺構確認と土層観察を行った。

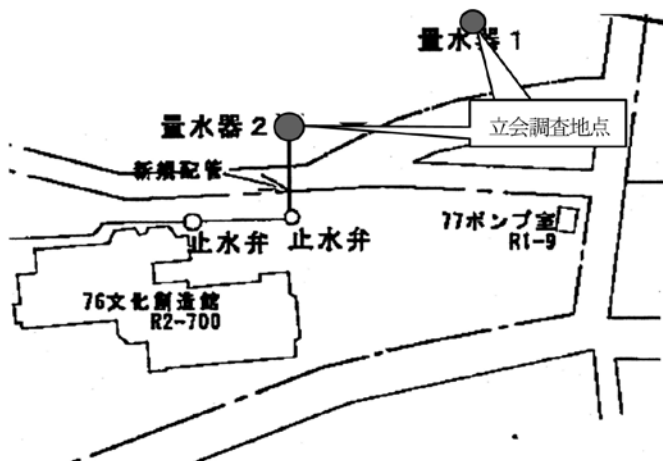
土層堆積状況は、基本的に同様であり、第1層（黒褐色土層）、第2層（暗褐色砂質土層）、第3層（灰黄褐色砂層）の層順が確認された。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物は全く確認できなかったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

なお、第2層が平成23年8月29日試掘調査の第5層、第3層が同6層に当たると考えられ、平安時代の文化層（同9層）は、今回の工事による掘削深度よりもさらに下層に存在することが想定された。



第1図 県立園芸高等学校整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



量水器1地点 掘削状況



量水器1地点 土層堆積状況



量水器2地点 掘削状況



量水器2地点 土層堆積状況

35 県立谷村工業高等学校施設整備事業 立会 《三ノ側遺跡》

所在地	都留市上谷5-7-1地内	調査期間	平成24年3月12日、15日～16日
担当者	保坂和博	調査面積	16㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立谷村工業高等学校のグラウンド水路改修工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡（奈良・平安時代）に隣接し、また平成23年に県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う本調査（以下、都留キャンパス調査）も行われていることから、立会調査を実施した。

今回の立会調査は、A地点（17.0m×0.5m）及びD地点（15.0m×0.5m）の2地点において、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

A地点では、第1層（アスファルト）、第2層（碎石）、第3層（暗褐色土層：埋土）、第4層（暗暗褐色土層）、第5層（黒褐色土層）の層順が確認された。

D地点では、第1層（コンクリートまたは黒褐色土層）、第2層（碎石）、第3層（暗褐色土層）、第4層（暗黄褐色層）の層順が確認された。

A地点の第4層は、都留キャンパス調査の第2層、第5層は同3層（遺物包含層）、D地点の第3層は同2層、第4層は同3層に当たると考えられた。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物は全く確認できなかったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



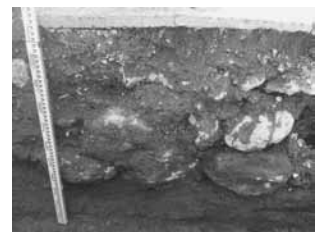
第1図 谷村工業高等学校整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



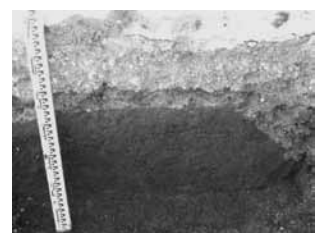
A地点 掘削状況



A地点 土層堆積状況



D地点 掘削状況



D地点 土層堆積状況

36 県立甲府東高等学校治水対策事業 立会 (甲府市酒折一丁目地内)

所在地	甲府市酒折一丁目17-1地内	調査期間	平成24年7月23日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	83㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立甲府東高等学校での濁川流域グランド貯留施設建設工事に伴う立会調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しないが事業面積が広範囲におよぶことから、平成24年7月13日に行われた中北建設事務所河川砂防課、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。

今回の立会調査は、施工箇所の中で新たな掘削がおよぶ範囲で、グランドの周囲の小堤及びグランド搬入路を対象に実施した。グランド整地工については、既掘箇所となることから立会調査を実施しないこととした。

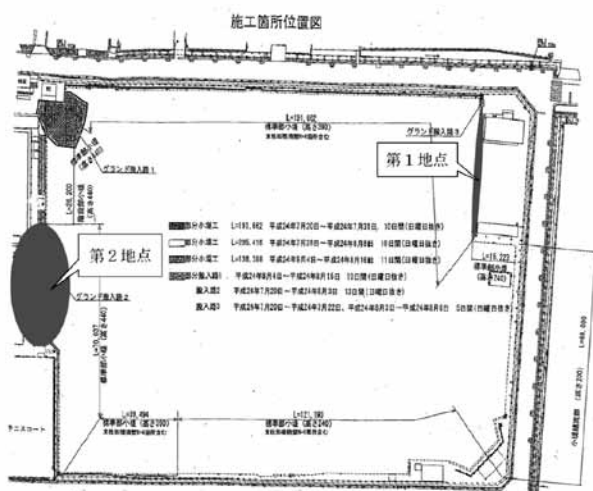
小堤施工箇所では、長さ約536m、掘削深度約60cm、幅約50cmを測る。土層の堆積状況は、立会第1地点で現況地盤面下約60cmまで埋土（整地層）が確認された。

搬入路施工箇所（立会第2地点）では、長さ約25m、掘削深度約70cm、幅約100cmの掘削範囲において確認作業を行った。土層の堆積状況は、現況地盤面下約40cmまで埋土（整地層）が堆積し、さらに自然堆積層（第2層～第4層）が確認された。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 県立甲府東高等学校治水対策事業位置図



第2図 立会調査位置図



第1地点 掘削状況



第1地点 土層堆積状況



2 地点 掘削状況



2 地点 土層堆積状況

37 県立 北杜高等学校緊急修繕事業 立会 （北杜市長坂町渋沢地内）

所在地	北杜市長坂町渋沢153地内	調査期間	平成24年11月30日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	3㎡

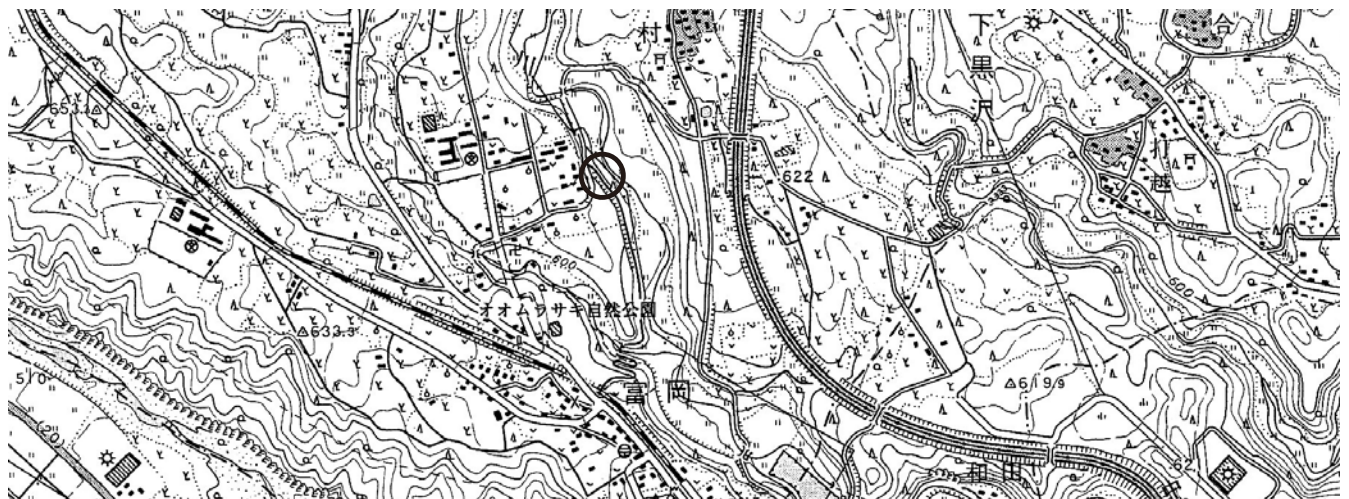
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県立北杜高等学校での農場外周擁壁工事、既設枡改修工事、道路側溝改修工事等に伴う立会調査である。この地点は、これまでに峡北地区総合学科高校（北杜高校）整備事業に伴い、平成12年度から14年度にかけて3次にわたり発掘調査が実施され、縄文時代中期や平安時代の集落跡などが発見されている周知の埋蔵文化財包蔵地である原町農業高校前遺跡の隣接地に当たることから、平成24年10月23日に行われた県立北杜高等学校、学術文化財課、埋蔵文化財センターとの現地協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。

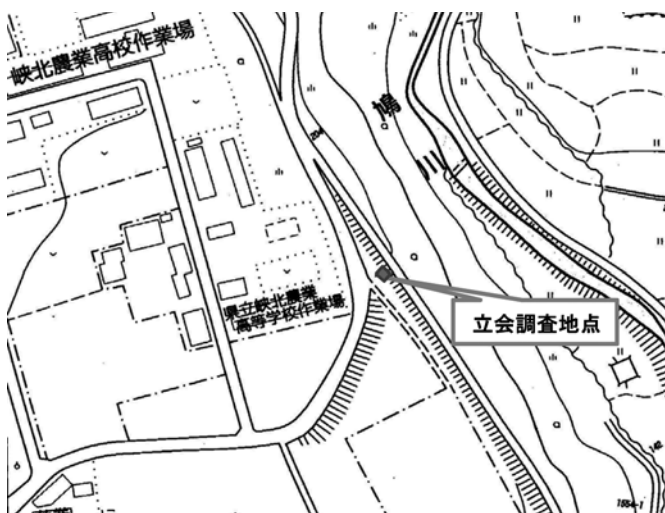
今回の立会調査は、市道脇にある既設枡の周囲に嵩上げ擁壁を設置する際に遺構確認と土層観察を行った。工事による掘削深度は、既設枡の法面側で最大高130cm前後を測り、この掘削面での土層堆積状況は表土層以下に地山層（暗褐色土層）が確認された。

立会調査の結果、遺構・遺物ともに検出されず、遺跡は存在しないものと考えられたため、今回の立会調査地点では、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

なお、今回立会調査が実施出来なかった工事（農場外周擁壁工事など）については、改めて立会調査を行う必要がある旨を報告した。



第1図 県立北杜高等学校緊急修繕事業位置図



第2図 立会調査位置図



既設枡(外)改修状況



既設枡(内)改修状況



掘削状況



土層堆積状況

38 平等川基幹河川改修事業 立会 《堤防遺跡推定地》

所在地	笛吹市石和町広瀬地内	調査期間	平成24年1月10日
担当者	野代恵子・古郡雅子	調査面積	73㎡

調査経緯及び事業内容と結果

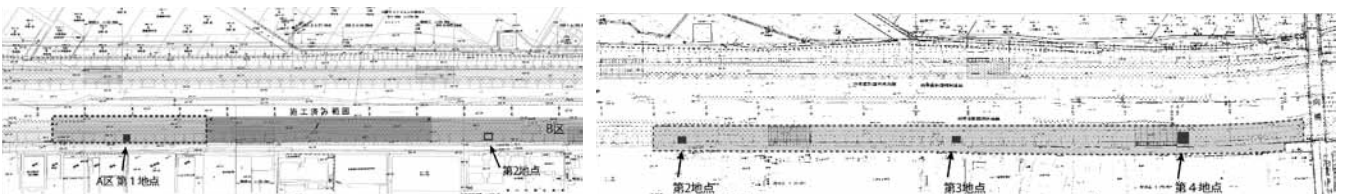
本事業は、平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査である。当該箇所は堤防遺跡推定地となっており、今回はA区約80m、B区約310mの範囲において実施した。

第1地点では、シルトが厚く堆積し、他地点と土層状況が異なったため、より深く掘削したところ、土手の法面中央付近、地表下2.6mの位置で、直径約20cmの木杭が約90cm間隔で3本垂直に打設されていた。これは堤防基底部の構造にも類似する。周囲には竹材の残骸も見られ、これは蛇籠等の一部であった可能性もある。第2地点では特に遺物・遺構は確認されなかった。第3地点は鉄線で巻かれた蛇籠が確認されたが、層位等から近代以降のものと考えられる。第4地点では、暗褐色粘質土直上の明褐色砂層中から江戸時代・明治時代の遺物が出土した。ただしこれらは、ガラス片や瓶等新しい時期のものと混在していることから、元位置を留めているものではない。

立会調査の結果、今回の工事箇所については調査の必要がなく、工事を進めても差し支えない旨を報告した。ただし堤防基底部の可能性もある痕跡が確認されていることから、工事の掘削深度によっては、慎重な対応が必要である。



第1図 平等川河川改修工事位置図



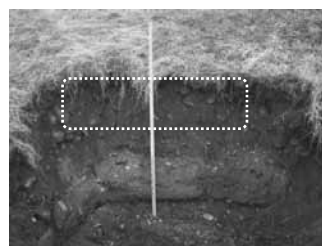
第2図 立会箇所位置図



第1地点 木杭



第1地点 木杭



第3地点 蛇籠



第4地点 遺物出土状況

39 森林公園金川の森再整備事業 立会 《宮の上遺跡》

所在地	笛吹市石和町上平井地先	調査期間	平成24年11月12日、12月6日
担当者	保坂和博・土橋寛仁	調査面積	155㎡

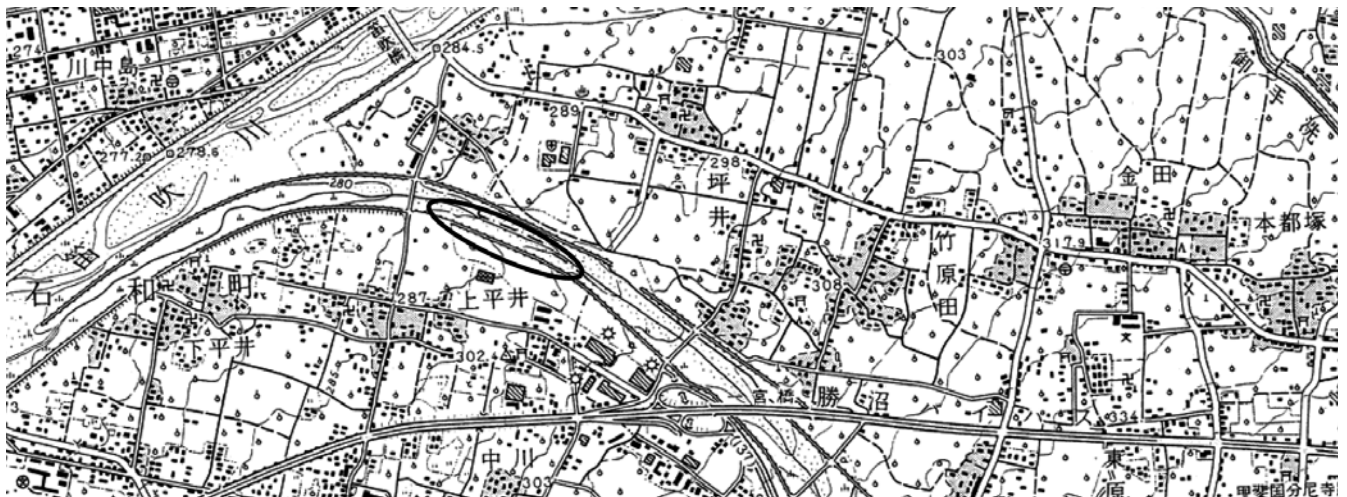
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、森林公園金川の森再整備事業に伴うかぶとむしの森観察施設等を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮の上遺跡の範囲内に当たることから、県有林課と学術文化財課との事前協議に基づき、工事工程に合わせて立会調査を実施した。

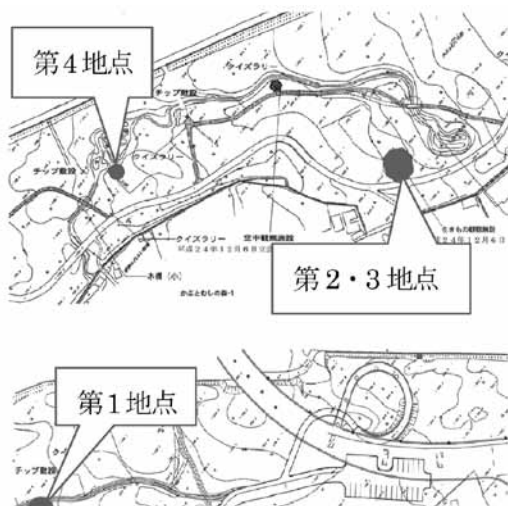
今回の立会調査は、空中観察施設（1地点）、生きもの観察施設（2・3地点）、クイズラリー標示板（4地点）の建設地点において基礎の掘削深度が現地地表下0.45～1.1m前後に及ぶため、重機による掘削時に遺構確認と土層観察を行った。

各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下0.2～0.5m前後まで表土層（腐植土層）が堆積し、その直下から金川の氾濫により形成された河川堆積層となり、砂質土層、シルト質土層、砂礫層による互層が確認された。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。



第1図 森林公園金川の森再整備事業位置図



第2図 立会調査位置図



第1地点 土層堆積状況



第2地点 土層堆積状況



第3地点 土層堆積状況



第4地点 土層堆積状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまなしけんないぶんぷちょうさほうこくしょ
書名	山梨県内分布調査報告書（平成24年）
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	293集
著者名	保坂和博 土橋寛仁
発行者	山梨県教育委員会
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016
発行年月日	2013年3月25日

事業名・遺跡名	所在地	調査面積	調査対象面積	調査期間
1 中部横断自動車道建設事業	南部町福土字峯4006外地内	34㎡	1,048㎡	平成24年1月19日～23日
2 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町黒沢字洗平2157-4外地内	65㎡	2,200㎡	平成24年1月10日～11日
3 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町岩間726外地内	144㎡	5,500㎡	平成24年1月12月～17日
4 中部横断自動車道建設事業	南部町福土字真篠地内	34㎡	1,500㎡	平成24年1月24日～25日
5 中部横断自動車道建設事業	南部町福土字矢島4866外地内	340㎡	5,300㎡	平成24年2月1日～9日
6 中部横断自動車道建設事業	南部町福土字矢島4969外地内	130㎡	3,520㎡	平成24年9月10日～12日
7 中部横断自動車道建設事業	南部町福土字平3150外地内	110㎡	500㎡	平成24年2月27日～28日
8 中部横断自動車道建設事業	南部町福土字平3154外地内	59㎡	533㎡	平成24年9月13日
9 中部横断自動車道建設事業	市川三郷町落居6806外地内	73㎡	4,800㎡	平成24年9月14日～20日
10 中部横断自動車道建設事業	身延町下山地先	949㎡	22,000㎡	平成24年7月4日～5日、24日
11 国道52号改良事業	甲府市上石田一丁目12-5外地内	142㎡	800㎡	平成24年1月5日～6日
12 国道411号改良事業《大門後遺跡》	甲州市勝沼町休息1612外,等々力1430外,山1140外地内	85㎡	1,503㎡	平成24年10月29日～30日、12月3日～4日、5日
13 山梨リニア実験線建設事業《柚木遺跡》	笛吹市八代町竹居1211外地内	32㎡	300㎡	平成24年12月13日～14日
14 甲府駅南口修景計画事業《甲府城下町遺跡》	甲府市丸の内二丁目地内	16㎡	1,050㎡	平成24年6月4日～5日
15 甲府駅南口周辺地域修景計画事業《甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目9番地内	36㎡	517㎡	平成24年12月1日～8日
16 リニア見学センター再整備事業	都留市川茂字上揚久保502外地内	223㎡	9,713㎡	平成24年11月1日～9日
17 県営住宅大月団地建替事業《丹後屋敷》	大月市駒橋一丁目5-2地内	7㎡	3,132㎡	平成24年6月13日
18 東部地域総合制高校建設事業《三ノ側遺跡》	都留市上谷5-7-1地内	186㎡	10,000㎡	平成24年7月25日～8月3日
19 県立わかば支援学校建設事業《後田堰》	南アルプス市有野3346-3地内	370㎡	7,500㎡	平成24年2月20日～24日
20 県立わかば支援学校建設事業《後田堰》	南アルプス市有野3346-3地内	243㎡	24,720㎡	平成24年8月20日～27日
21 県立かえで支援学校建設事業	笛吹市石和町中川1400地内	34㎡	620㎡	平成24年9月6日
22 県立峡南高等技術専門校本館改築等事業《堤防遺跡推定地》	富士川町青柳町3492地内	200㎡	585㎡	平成24年12月3日～5日
23 南川河川改修事業《桜坪遺跡・中尾糸理遺跡》	笛吹市一宮町一ノ宮字日出田766外地内	5㎡	1,200㎡	平成24年11月22日
24 国道411号 古府中環状浅原線改良事業《甲府城下町遺跡》	甲府市中央二丁目14外地内	425㎡	425㎡	平成24年5月30日～
25 国道358号共同電線溝設置事業	甲府市上今井町1025地先外	34㎡	579㎡	平成24年10月30日、11月29日
26 甲府山梨線整備事業《甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目6-1地先外	6㎡	6㎡	平成24年7月9日
27 林野庁関東森林管理局山梨森林管理事務所白根宿舎解体事業	南アルプス市有野2722-26地内	44.6㎡	44.6㎡	平成24年8月20日
28 南アルプス警察署三田駐在所改築事業	南アルプス市寺部144-1地内	3.5㎡	226㎡	平成24年7月20日
29 県営住宅寿団地下水道接続事業	富士吉田市上暮地一丁目8地内	14㎡	30㎡	平成24年9月12日～14日、18日、19日
30 県営住宅身延第二団地下水道接続事業	身延町波木井1200-2地内	35㎡	42㎡	平成24年9月24日～26日
31 山梨県防災新館建設事業《甲府城跡》	甲府市丸の内一丁目8地内	11㎡	11㎡	平成24年12月10日、17日～18日
32 県立かえで支援学校教室改修事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川1400地内	68.5㎡	72㎡	平成24年1月16日、18日、24日～25日
33 県立かえで支援学校建設事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川1400地内	10㎡	10㎡	平成24年3月2日
34 県立園芸高等学校施設整備事業《狐原遺跡》	笛吹市石和町中川1400地内	2㎡	2㎡	平成24年3月2日
35 県立谷村工業高等学校施設整備事業《三ノ側遺跡》	都留市上谷5-7-1地内	16㎡	16㎡	平成24年3月12日、15日～16日
36 県立甲府東高等学校治水対策事業	甲府市酒折一丁目17-1地内	83㎡	155㎡	平成24年7月23日
37 県立北杜高等学校緊急修繕事業	北杜市長坂町沢沢153地内	3㎡	3㎡	平成24年11月30日
38 平等川基幹河川改修事業《堤防遺跡推定地》	笛吹市石和町八瀬地内	73㎡	73㎡	平成24年1月6日、10日
39 森林公園金川の森再整備事業《宮の上遺跡》	笛吹市石和町上平井地先	155㎡	155㎡	平成24年11月12日、12月6日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第293集
山梨県内分布調査報告書（平成24年）

印刷日 2013（平成25）年3月20日
 発行日 2013（平成25）年3月25日
 編集 山梨県埋蔵文化財センター
 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
 T e l 055-266-3016 F a x 055-266-3882
 発行 山梨県教育委員会
 印刷所 株式会社 峡南堂印刷所